

2017.5

銀友

No.46

本郷学園同窓会

総会のお知らせ

日 時 2017年6月17日(土) 15:00より
場 所 本郷学園1号館2階会議室

<http://本郷学園同窓会.jp> & <http://www.hongo-gd.net>

学園より教育振興資金のご寄付のお願い

同窓会会員の皆様には、日頃より学園運営に多大なるご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

さてご高承のとおり、当学園では2号館、4号館の建て替えやその他校舎の改修など、建物関係の整備が一段落し、現在はより充実した教育活動を行うための校舎内整備や教育器材、備品、図書などの拡充を進めております。また、平成34年には学園創立100周年を迎えますが、今後はその準備も進めてまいりたいと思います。

ところで、お願いを致したい「教育振興資金」のご寄付ですが、学園の教育施設や備品の充実、環境の整備など、教育内容の充実に用途を限定した資金をご寄付の形でお願いしているものです。3,000円からの金額でお願いしておりますが、趣旨にご賛同いただければぜひご協力を宜しくお願い致します。

●お申し込み方法

- ①学園事務室に寄付の申込書をご請求ください。
学校法人本郷学園 事務室 担当 石田(事務長)
電 話 03-3917-1456
ファックス 03-3917-0007
- ②お送りする申込書に所定事項をご記入のうえ、郵便局窓口又は郵便局ATMにてお振込ください。
- ③入金確認後、「振込金受領書」並びに「特定公益増進法人であることの証明書」(写し)をお送りいたします。

●税法上の寄付金控除

私立学校への寄付金は特定公益増進法人に対する寄付金として、確定申告により所得税から控除されます。詳しくは本郷学園事務室までお問い合わせください。

卒業生の皆様へご協力の御願い

本郷学園は2022年(平成34年)に創立100周年を迎えます。

現在、100周年の企画にむけて、学園の歴史にかかわる資料や情報の収集を行っております。一昨年6月には2号館1階に「本郷ギャラリー」を開設し、学園の沿革・歴史が概観できるようパネルや写真を中心とした展示を始めました。

つきましては、卒業生の皆様方から学園生活にまつわる品物や情報のご提供・ご協力を賜りたく御願い申し上げます。

本郷生の学園生活も時代とともに変化してきておりますので、ごくありふれた物と思える品々でも、今日では貴重な資料となるものが多くございます。特に生徒の立場で使用された物や時代の古い物等は学園側には保存されております。例えば以下のような品物を探しております。

- 学帽・学生服や運動着、学用品や教材類
- 部活動や同好会活動などの部誌、記念品など
- 学校行事のしおりなどの印刷物や写真類
- 学校や生徒を紹介した新聞・雑誌等の掲載記事
- 音声や映像(カセットテープ、8ミリ、ビデオテープ…)
- 卒業生の著作物
- 旧制中学時代(戦前・戦中)の品物や卒業証書など
- 卒業アルバム(特に昭和20年代までは欠本が多く、探しております)

また、学園にまつわるエピソード・思い出話などの情報(先生・級友との思い出、学園生活や駒込・巣鴨の様子…)もお寄せ下さい。

資料のご提供の方法は、必ずしもご寄贈の形ではなくとも結構です。一旦お借りしてデジタルデータ等の複写・複製をとり、後日原本を返却させて頂く方法も行っております。各資料に応じて個人情報保護の対応も致します。

お問い合わせ、連絡先は以下の通りです。是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

本郷学園 校史編纂室

担当 齋藤悦正

〒170-0003 東京都豊島区駒込4-11-1

03-3917-1456(代) E-mail y-saito@hongo.ed.jp

目次

Index

p3
ごあいさつ

● 本郷学園同窓会 会長

1956年〓昭和31年卒業 南谷 修 (高校8回生)

● 学校法人 本郷学園理事長

松平 頼武

p5
投稿

● 本郷から始まる私のページ

2003年〓平成15年卒業 金子 駿太 (高校55回生)

● 本郷魂

1993年〓平成5年卒業 佐藤 憲一 (高校45回生)

● 38歳で保護司に

1973年〓昭和48年卒業 小山 進 (高校25回生)

● 「神宮の奇跡」と島崎雄司(高5回生)先輩

1954年〓昭和29年卒業 関 貞三 (高校6回生)

p16
染井能舞台物語

p18
「本郷の先輩たち」

p21
同期の輪

「成人の集い」ほか

p27
OB会通信
「卓球部」

2009年〓平成21年卒業 清河 文雄 (高校61回生)

p29
トピック

● 第四回本郷医師の会

1996年〓平成8年卒業

本郷医師の会幹事長

杉下

和行 (高校48回生)

p30

2017年度事業計画・予算案

p32

2016年度事業・決算報告

p34

2016年度定期総会報告

1966年〓昭和41年卒業

山際

幸雄 (高校18回生)

p35

2016年度本郷祭報告

1983年〓昭和58年卒業

竹野谷

茂 (高校35回生)

p36

2016年度表彰報告

p37

本郷学園同窓会役員一覧(案)

p38

学園だより

● 2017年大学入学試験合格実績

p39

本郷学園同窓会会則

p41

本郷学園同窓会会費納入者一覧

p45

計報

ごあいさつ



本郷学園同窓会
会長

南谷 修

1956年=昭和31年卒業
高校8回生

同窓の皆様、日頃より、会の運営にご理解、ご協力を頂いており、誠にありがとうございます。

今年の桜の便りは、西からではなく、東京からの発信となりました。新年度を待っていたかのように、入学式に合わせ満開となりました。西より先に、東京の満開は珍しいことであります。

同窓会は1928年3月、昭和3年、第一期卒業生により発足し、今年で90年を迎えます。学園は創立95年となり、あと5年の2022年に100周年を迎えることになりました。学園の記念行事の方針に合わせて、同窓会の皆様と準備を進めて参りたいと存じております。

学園は佐久間校長によつて二年が無事に過ぎ、学園を知り尽くしている校長ならではの、より良い環境作りを努力なされておられ、これからも大いに期待をしているところであります。

大学の進学状況は後の頁に記載されておりますが、昨年とほぼ同様であります。週刊誌などでは、慶応大学への進学が著しく伸びた学校として、話題となっております。

同窓会としては、常に同窓の皆様との繋がり、親睦を深めることと、学園の発展のために、何を成すべきかを考えて進めております。

卒業後2年目の「成人の集い」も今年で10回目となることで、「30歳の集い」を計画しております。「還暦の集い」も定着してまいりました。更に「同期会」も活発となり、多く開催されるようになりました。今後にも多くの同窓の方々に呼びかけて、協力を続けて参ります。

本郷祭では、パネル展示「本郷の先輩たち」も今年で5回目となり、多くの先輩達を紹介しております。

学園には、全国規模の大会等で活

躍した生徒達への表彰を行っております。当初の考えとは異なり、運動部門より科学部門の活躍が多く、教育方針である「文武両道」が実質的に示されております。

学園の方針のもとに協力して参っております。皆様へもお願いすることも多くあると存じますが、よろしくお願ひ申し上げます。

今の社会は、なかなか予想のつきにくい、混沌とした状況であります。そのほとんどが考え方、論争の原点を決めてのことではなく、基準の差を忘れての争いによることが多いのではないのでしょうか。各々がそれぞれの立場で、それぞれの判断基準をしっかりと持つことが大切な時代になっているのではないのでしょうか。

本郷で育った絆のもとでの人の繋がりが、大きな財産となっていくことを願っております。同窓の皆様、是非とも同窓会への深いご理解とご協力、ご参加をお願いいたします。

皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

ごあいさつ

学校法人 本郷学園
理事長

松平 頼武

同窓会の皆様には、日頃、学園のために多大なご指導とご支援を戴いていること、心から御礼申し上げます。

平成28年度は、佐久間昭浩 新校長のもとで無事全日程を終えることが出来ました。佐久間校長は、本校での教職の経験が長く、教諭、生徒、保護者からの信任が厚く、教職員とのチームワークもよく、これからの学校運営に大きな期待を寄せられているところであります。

本年の大学進学実績は、昨年に続いて良い結果を出してくれました。2月に行いました中学、高校の入試も多くの応募があり、お陰様で優秀な生徒の入学が決まりました。

本年度は、中学ラグビー部が、東京都の春季大会で優勝、全国大会で第2位となりました。高校3年の聲高健吾君は、第69回東京都高等学校陸上選手権大会200mで優勝し、インターハイに出場しました。

科学部は、第13回日本物理学会 Jrセクションで奨励賞を受賞、地学部が全国高等学校文化祭のポスター発表部門で東京都代表となりました。その他の運動部、文化部も外部での催しにチャレンジし、優秀な成績を残してくれました。また、個人でも全国大会などに挑戦する生徒が増えてきていますが、これは

好ましいことだと考えています。

夏期の海外研修は、本年度から、従来からのカナダ研修に加え、オーストラリアでの研修を開始しました。どちらも多くの参加希望者があり、成功裏に終わりました。

本校の教育方針である、「文武両道」「自学自習」「生活習慣の確立」、そしてスローガンの「本郷生はスマートであれ、紳士であれ」を、より深く生徒にゆき渡らせてまいりたいと考えています。

2022年の創立100周年に向けての準備は本年より始めます。同窓会の皆様方にもご協力を戴きたいと思えます。

本年度も、同窓会の皆様の、後輩育成に対するご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

本郷から始まる

私のページ

金子駿太

2003年＝平成15年卒業
(高校55回生)

皆様はじめまして。平成15年卒（高校55回生）の金子駿太と申します。昨年は、本郷医師

の本郷医師の会の会長の本郷明久先生が銀友に投稿されておりましたが、今年は何となく私が投稿をさせていただきます。このような機会をいただき、改めて感謝申し上げます。私が本郷中学へ入学した頃は偏差値が50台で、進学校とは決して言えるような状況ではありませんでした。現在は名だたる進学校と肩を並べ、現役での難関大学への進学者数もとても増えていると聞いており、本郷の卒業生として鼻高々な思いであります。今回は私の現在の医師の仕事の話、さらに

本郷学園時代

私が過ごした本郷学園での生活は、生徒は皆元気で個性に溢れる生徒が多く、日々楽しい学生時代を過ごすことができました。私たち生徒を担任して下さった先生方は皆口を揃えて「こんなに大変だった学年はない」とおっしゃっておりますが、それだけパワフルな生徒が多かったのだと思います。当時、私は同級生達と放課後には必ず職員室に立ち寄り、先生方と話をしてから帰るという習慣がありました。その当時は特に疑問もなく、日課のようなもの

でした。思い返してみるとそれだけ先生方が生徒と近い距離感で関係を築いて下さり、より親身になってご指導をして下さいましたからこそだと思います。

また、私の本郷学園時代を話す上で欠かせないのが、卓球部での生活です。もともと小学校時に家族で温泉卓球をしたことがきっかけで卓球が好きになり、本郷中学に入学してすぐに卓球部に入部しました。卓球部では、とても楽しい思い出ばかりですが、やはり「部活」というコミュニケーションの中で、先輩・後輩への配慮や他者への気配り、忍耐力など社会に出て行くために必要な心構えや常識を学ぶことができました。当時、卓球部の顧問で、現校長の佐久間昭浩先生や山梨英克先生（数学）、金子孝太郎先生（数学）を始めとした多くの先生方からたくさんのお話を学ばせていただきました。また、10数年



右から2人目が私

前より本郷卓球部では毎年12月30日にOBが集まって卓球の試合を行い、その後には皆で食事をするという年末の恒例行事があります。同じ時代に一緒に部活をしたことがない先輩や後輩と卓球をしたり、食事をしたりして、現役の学生さんたちと我々社会人との間で楽しい交流を図っております。社会に出てから学んだことを先輩として後輩に伝えたいことはたく

さんあります。少しでも後輩の役に立つことができれば幸いです。

医学部時代

私は本郷高校を卒業後は、東京慈恵会医科大学医学部医学科に入学し、1年目は東京の狛江キャンパスで、2年目以降は西新橋キャンパスで学生生活を過ごしました。1年目は一般教養を中心し、2年目は基礎的な生化学や病理学、解剖学など、3年目以降は少しずつ臨床医学を学び、5年生からは臨床実習を行い、実際に医師になるための本格的な勉強を行いました。医学部では、他学部比べて仕事により直結することを学ぶため、勉強自体は苦になりませんでした。

再び卓球の話になりますが、大学でも卓球を続けました。しかし、東京慈恵会医科大学（以下、慈恵医大）の卓球部は入学時には部員数が私を含めて3人と廃部寸前の状況にあり、2年生

の時には遂に私1人となってしまいました。1人の時は色々な他大学で練習をさせていただき、たくさんの人にお世話になりました。そして他大学の方の協力もあり3年次には、念願の新入部員が3人も入りました。その後は毎年部員が増えていき、現在の部員はなんと30人ほどの大きな部活になっており、さらには1人1人が皆真剣に卓球に取り組み、とても礼儀正しい爽やかな後輩ばかりで、部員1人の時代を経験した私には涙が出るほど嬉しいことでした。私は3年次の東日本の医学部の学生だけで行っ一番大きな大会（通称「東医体」）で、仲良くしていた千葉大学の同級生に3回戦で破れてしまったというとても悔しい経験をしました。そんな中で、東京で卓球ではNo.1の高校である「実践学園」の卓球部でコーチをしていただく方と他大学の方の紹介で巡り会



中央で賞状を持っているのが私

うことができ、悔しさをバネにその方の元で毎日猛特訓をした結果、次の4年次には東医体の男子シングルスで準優勝をすることができました。最初は部員が1人という一見最悪の状況ではありましたが、逆にそのおかげで他大学の多くの方と知り合うこともでき、結果として良い成績を残すことにつながりました。慈恵医大の卓球部では逆境をチャンス

に変える力と努力の大切さ、緊張する場面で実力を発揮する冷静さと度胸を学びました。

医師としての生活

6年次の最後に受けた医師国家試験には無事に合格し、2年間の初期臨床研修は新宿にある国立国際医療研究センターという有数の人気の研修病院で行いました。同センターは先進医療を実践し地域の中核を担う病院でした。市中病院としては珍しいのですが、同学年の研修医が40名と多く、全国から優秀な研修医が集まっており、全寮制で和気藹々としながらも切磋琢磨し成長できる環境でした。平成16年より初期臨床研修は全国どの病院でもスーパーローテーションという各診療科を短期間ずつ研修し、幅広い知識と経験を積むというシステムを取っておりますが、2年間という短い期間であるため、全ての診療科をローテーションし

されるわけではありません。しかし、私が初期研修をした病院は、全ての内科をローテーションでできる病院であったことから、内科を専門としたいと考えていた私にとっては最適な環境でした。2年間の初期臨床研修を終えると、これから専門にしていく診療科を選択し後期研修を受けるのですが、内科の中でも私は膠原病科を選びました。あまり聞きなれない診療科であると思いますが、関節リウマチを代表とする所謂「難病」を扱う科で、膠原病というのには自分の体の免疫異常により全身に症状を来す疾患で、診療をしていく上では全身の管理と幅広い知識を必要とするため、医師の中では「The 内科」と言われる診療科です。皆様がテレビなどでよく目にする医師の多くは、難しい手術をやり遂げ人の命を救う外科医か、救急車で運ばれ

てくる患者を迅速かつ的確な治療で命を救う救急医かでしょう。

膠原病科はそれらとは異なり、膠原病は基本的には病気自体は完治せず、薬により病状をコントロールしていく病気です。

外科のように癌を手術で取り除いて、患者、医師の関係が終わるものではなく、一生治らない病気であるが故、患者と医師は一生の付き合いとなります。薬を処方する際には、患者の全身状態に気を配り、どの薬剤を選択

するかは個々の医師の裁量により異なります。薬は患者の人生を良い方にも悪い方にも変える力を持っています。私は患者の人生に寄り添う気持ちで、患者がより良い人生を送れるように日々責任を持って診療に当たっております。また、その中で患者の病状が良くなり、患者から感謝の言葉をいただくとは本当に嬉しい気持ちになり、日々の診療の励みに

なります。また、膠原病はまだまだ原因がわかっていない病気ばかりで、治療も発展途上の状況であり、これからも研究が盛んに行われ新たな治療法が次々と発見されていく分野と言えます。

私は現在、筑波大学の大学院で関節リウマチの原因を探る研究をしており、未来の特効薬開発の一助となればという思いで、臨床の傍ら、日々研究にも励んでおります。

本郷医師の会

本郷医師の会は、2013年に設立されました。本郷学園出身の医師や医学生が毎年11月最終週の土曜日に集まり親睦を深めております。私は第1回から参加しております。2016年には第4回本郷医師の会が無事に執り行われました。別ページで幹事長の杉下和行先生が記事を書いておりますので当日の詳細は割愛いたしますが、この会では、様々

な診療科の医師、開業医、勤務医など多種多様な立場の医師と本郷学園の先輩・後輩として気兼ねなく語り合うことができます。普段の診療の現場では聞けないような貴重な情報を交換することができます。

ただ、専門分野以外で困った時に頼れる存在を得ることができません。特に出身大学の病院から離れて診療に従事している場合には、こういった会の存在はとても大きいです。これから医師を目指す本郷学園の生徒の皆様も医学部に入學した暁には、是非本郷医師の会に参加して下さい。我々も先輩として新入会員に会えることを心待ちにしております。また、すでに医師として活躍の方がいらっしゃいましたら、是非本郷医師の会のホームページ（<http://hongoshinokai.wixsite.com/home>）からコンタクトを取っていただければと思います。

本郷魂

佐藤 憲一

1993年＝平成5年卒業
(高校45回生)

「本郷魂！」

本郷魂。誰が言い始めたかはわからないけれど、わたしが本郷に在学した1990年から1993年の間には、ここぞ、というときに、どこからともなく聞こえてきた言葉です。高校ラグビー都大会の予選のスタンドで、森林公園でのマラソン大会で、試験前のがんばりどころで、ときには女の子に振られたあとに。誰かが「本郷魂！」というと、そうだよな、おれたちは本郷生だよな、と妙に納得して、実は何も解決していないのに、なんとなく落ち着いて、どこことなく元気になって、明日からまた生きる気力が湧いて来る。これは、そういう、なんだか不思議な言葉でした。

力オス的環境

当時の本郷には、わたしが在籍した普通科に加え、理数科、工業科、そしてデザイン科があり、文字通り多様な学生が棲息していました。成績のよさそうな、優等生風の学生もいれば、いかつい見た目の奴もいる。その一方で、いかにも絵なんかを描いていそうな、芸術家風の学生も、いる。ラグビー部の筋骨隆々の学生もいれば、ギターを背負った長髪のパンドマンもいる。あの頃の本郷は、さまざまな価値観やさまざまな生き方、さまざまな夢が交差し、溶け合い、ひとつになる、そういう稀有な場所だったとおもいます。

学生だけではなく先生方も個性的でした。授業中に熱っぽく自身

の野球理論を開陳する先生。有名劇団で脚本を書かれている先生。当時最難関だった上智の英語入試問題を、惚れ惚れとするような明晰さで解いて見せた先生。高校ラグビーの名将。もちろん授業もきちんとなさつてくれていたはずですが、今になっても思い出されるのは、名だたる先生方の個性的な佇まいに尽きます。

本郷では、このように、学生にも



中段中央が私

先生にもいろいろな人間がいて、みんながいろいろなことを言い合って、ときには衝突し、時には妥協し、ともかくも毎日が進んでゆく。笑いもあれば怒りもあり、理解もあれば誤解もある。連帯もあれば、決別もある。このような、いわばちょっととしたカオスのような環境はきつと、当時の本郷以外ではなかなか望んでも得られるものではなかった、と思います。今になってみれば、16歳から18歳の3年間というかけがえない時間を本郷ですごし、3年間をとにかくも生き抜いたおかげで、その後の人生を生きるうえで十分な基礎体力が身についた、といっても過言ではありません。

本郷を生き、本郷に生かされる

卒業から年月が経てば経つほど、その思いは強くなってきました。例えば、第一志望の大学に不合格で、浪人をしようと決意したわた

しを、当時の担任の先生は、「お前は浪人なんかしたら遊び呆けて終わる。受かったところに行つて、そこで精一杯やれ。そうすればまた別の道が見えるかもしれないぞ。」と、論してくださいました。「〇×大に何名合格」という実績だけが欲しい先生には、このような言葉は言えません。

また別の、倫理の先生は、不勉強のせいで期末テストの穴埋め問題に何もかけず、答案の空欄に「真の倫理とは何か」についての自説をとうとう述べたてたわたしに、90点をくださいました。そのような先生の態度にこそ、わたしは真の倫理を見たような気がします。

そう、本郷の先生方は、わたしというひとりの人間に、真剣に相對してくださいましたのです。30歳ほどの年の差のある学生を、ひとりの自立した人間として尊重し、時には諭し、時には受け入れ、時には叱ってくださいました。この経験は、当

時の本郷という半ばカオス的な環境の賜物に他なりません。人間は一つの尺度では計れない。人間の数だけ、尺度がある。ならば、尺度なんて、自分で作れば良いじゃないか。それが先生方の教えだったように思えます。

大げさに聞こえるかもしれませんが、本郷で同じ時間を共有した先生方や仲間たちは本郷らしさを生きると同時に、本郷らしさによって生かされていたのかもしれない。本郷生らしく生きなさい、そしていったん本郷を卒業すれば、どこに行つたつて自分の力でやっていけるさ。そういう全く根拠のない、しかし確かな自信、それが本郷魂の正体なのです。

本郷魂よ、永遠なれ

わたしは、大学卒業後も、いわゆる「普通の」コースをたどることはありませんでした。30代に至るまで大学院を転々とし、修士号をふ

投稿

38歳で保護司に

小山 進



1973年＝昭和48年卒業
(高校25回生)

平成二十八年秋に執筆依頼があり、私などに、なぜ？と、とても驚きました。
私は平成五年に、法務大臣より保護司の拜命を受け、墨田地区保護司会に配属され、現在に至って

たつ（イギリス文学およびアメリカ文学）、博士号をひとつ（アメリカ文学）、修得しています。25歳の1年間は、いわゆる「フリーター」生活も経験しました。32歳で幸運にもフルブライト奨学生に採用され、アメリカの大学に研究員として所属し、そこではじめてきちんとして「月給」らしきものをいただきましたが、帰国後1年間は日本の大学に専任の職を得ることができず、首都圏各地の大学で非常勤講師として週18クラスを教え、生計を立てました。

その後わたしは運よく群馬県の

小さな私立大学に採用され、3年間の勤務を経ていまは東京理科大学に研究室を移し、英語の教鞭をとっています。昨今の学生たちはみな優秀かつ素直で、私の大学時代など遥か昔日の感です。研究面では、主に日本アメリカ文学会を活動の場とし、学会での研究発表やシンポジウムのパネリスト、学会誌への論文執筆などに精を出しています。家庭では同業の妻との間に1男1女を授かり、家はいつもわいわい賑やかです。

在校中に、誰がこのような25年後のわたしの姿を想像し得たで

しょうか。仮に当時、ドラえもんが何かの道具で現在のわたしの姿を映し出したところで、周囲の人間は誰ひとり信じなかったと思います。わたしのこれまでの人生は、根拠のない自信、つまり、本郷魂が、不可能を可能にする不思議な力を持つていることを証明するためにあつたようなものです。その意味において、本郷で出会った先生方と仲間たちには、感謝の念しか、ありません。本郷なくしてわたしの人生なし―本郷魂よ、永遠なれ。



後列左から3人が私

います。

第四十五号の銀友を読んで、平成二十九年度の墨田地区保護司会で催す「社会を明るくする運動」中央集会で、三遊亭貴楽師匠に講演依頼の件で、同窓会に相談させて頂いた事がきっかけだと思います。

私は、サッカーがしたくて昭和

四十五年本郷高校に入学しました。高校最後の年、全国高校サッカー選手権大会で、帝京高校に延長戦で敗れ、悔しい思いをし、全国大会には出場できず、今でもその悔しさは残っています。卒業後は、当時、全国屈指だった大阪商業大学に進学し、強豪校で四年間サッカーを続けました（その当時、本郷高校から進学した先輩はおらず、大分いじめられました（笑））。高校のサッカー部では、阿出川先生と出会い、進学の事からいろいろとお世話になり、高校から大学と、七年間、サッカーを続けられたのも、本郷高校に入学したお陰で、本当に良かったと思っています。

大学卒業後は、出来たらサッカーに携わる仕事に就きたかったのですが、諸事情により、家業に入り、まだまだ何も解らないうちに、二十八歳の時父を亡くし、祖父の代からの家業（螺子製造業）を継

ぐことになりました。

大勢の方の力で、助けてもらいながら夢中で頑張っていた中、保護司の先輩の方から、声をかけていただき、こんな自分出来るものではないと、何度も断りましたが、人助けだと言われ、今自分があるのも、いろんな方に助けていただいているのだと思い、その恩返しに、少しでも自分が役に立つのであればと、承諾いたしました。当時三十八歳という若さで、はたして、犯罪を犯した人の厚生に役に立つのかと、不安で一杯のスタートでした。

保護司の仕事は、犯罪を犯した人が、執行猶予が付き、保護観察処分になった対象者、少年審判に於いての保護処分者、仮釈放者などの対象者との面談が主な仕事です。対象者は、少年から成人の男女までいるので、毎回、面談は緊張します。

対象者を受け入れるまでには、刑務所に出向き面談したり、身元

引受人である家族と会ったりと、今までに経験した事もないような事の連続で、引き受けた事を、正直後悔した事もありました。

けれど、対象者と向き合い、再犯をしないように、そして社会復帰に一步でも近づいてくれる事をいつも願いながら、彼らの話をじっくり聞き、向き合うようにしている結果、無事保護観察処分を終え、社会に復帰してくれた姿を見せてもらおうと、本当に良かった！と思います。

ですが、残念なことに、再犯する者も少なくありません。「何故」「どうして」と怒りがわく事も多々あります。が、それをぐっと我慢する事が出来るようになったのも、体育会サッカー部でいろいろ経験したからだと思っています。

保護司会とは、私が所属しているような各地区会から成り立っていて、各地区会でそれぞれ犯罪予防活動を行っています。特に、毎年七月一日から三十一日までは、全国

で、犯罪予防及び啓蒙活動である「社会を明るくする運動」を展開しており、私が所属している墨田区保護司会も、毎年七月中旬に、曳舟文化センターに於いて中央集会を開催し、講演会や映画上映などを行っています。

そして、今年は前項で書いたように、貴楽師匠に講演をお願いしたく、同窓会を通して連絡させていただき、快諾していただいた次第です。これから、師匠とお話を詰めて行きたいと思っておりますので、お近くにお住まいの方がいらっしゃいましたら、是非、足を運んでいただけたらと思います。

保護司にも、定年（七十五歳）があります。後十年ちょっと、私も、微力ながら社会貢献だと思いい、活動を続けて行く上で、色々な方々からの協力を頂き、「対象者」と向き合い、どれもこれも全てが、自分にとっての良き出会いだと信

じ、己を成長させてくれる「出会い」に、感謝しつつ頑張りたいと思っております。

この度、大変な協力を頂いた、同窓会役員の皆様方には、心より感謝しております。今後も、本郷高校同窓会のご発展を、お祈りしております。



投稿 「神宮の奇跡」と 島崎雄司(高5回生)先輩

関 貞三



1954年=昭和29年卒業
(高校6回生)

銀友45号で島崎雄司先輩の訃報を知り、言葉を失った。——九年前の、先輩との再会と、それに伴うさまざまな思い出が甦ってくる。



「神宮の奇跡」(門田隆将著)が出版されたのは二〇〇八年のことである。内容は東都六大学野球リーグで最下位だった学習院大学が一九五八年に優勝を遂げたドラマチックな話が中心だ。これには、わが本郷学園硬式野球部出身で、私も同期だった根立光夫君が活躍するエピソードが載っている。

この本のことを知ったのは野球部仲間だった佐々木進君からで、私は二読し、根立君の活躍とその精神力は母校の野球部はもちろん、学園の多くの生徒に知って欲しいと思った。それには学園の図書館に寄贈すればより多

くの生徒の目に触れるのではないかと考えたのだ。ただ、根立君は自らの誇らしげな話ほしくない男だから、本人は根回しなど潔しとしないだろう。結局、佐々木君と私で動くことにした。

しかし、ただ献本するだけでは通り一遍すぎる。考えた末、我々も根立君も高校時代に野球部で薫陶を受けた一年先輩の島崎雄司さんに推薦文を書いていただき、花を添えてもらうことにした。

本郷学園在学時の島崎さんは、小柄だが頑丈な体と厳しい容貌で、同級生はもちろん、先輩連中も一目置くような存在だった。武勇伝もあったと聞く。野球部の中でも面と向かって注意ができるのは、二年先輩のキャプテンと時折指導にくるO.B.ぐらいだった。

ところが、後輩の私達には弟分を扱うように接してくれた。しかし、練習ともなれば鬼の島崎と化し、手抜きをしようものなら、先輩でも、後輩の私たちにも容赦はしなかった。野球に打ち込む姿勢は直向きで、自らにも厳しかった。

最上級生でキャプテンになると、専任の監督もいなかったから、自らノック、バットを持ち、投・攻・守・走にわたり我々を指導した。そして、対外試合ともなると捕手兼監督として采配も揮った。部員の誰もが常に島崎さんを監督として認識していた。練習は厳しく、連日、暗くなるまで行われた。我々の年代になり、後輩らにいい選手が揃っていたこともあるが、高校野球秋の東京大会でベスト16校に入ったのも、まさに島崎さんの遺産だった。

島崎さんは卒業後、法政大学に進み野球を続けていたようだが、そのうち野球部を退部したという噂を耳にした。野球の好きな先輩が辞め

たのには余程の理由があったのだろう。その後は、私も卒業したため先輩の消息を聞くことはなかった。

島崎先輩への推薦文依頼は東京に住んでいる私が引き受けることになった。

——50数年振りに先輩の家に電話を入れると、聞き覚えのあるその声は物静かで、私を君付けにし、昔の、野球部時代の怖いイメージは全くなくなっていた。

推薦文依頼の件を話すと快く応じてくれ、日にちを指定してくれた。「では午後二時に伺います」と言うと、「昼飯をご馳走するから昼に来い」と言う。

当日、「本」を持参しお宅に伺うと、うな重を取り寄せてくれ、ご馳走にあずかった。特別のものだったのだろう。「こんなにおいしい鰻は食べたことがありません」というと、先輩は「旨いのを頼む」と最前ひいきの店に、時間を合わせ焼かせたも

のを届けさせたのだという。

昔の思い出話をしながらの食事は楽しいものだった。又、話の端々から、父君の会社をさらに発展させ、会社もご本人も地元から厚い信頼を受けている様子がうかがえた。帰りには梅島駅まで送っていただき恐縮したのを憶えている。

島崎先輩の推薦文の書かれた「神宮の奇跡」は、後日、(当時)硬式野球部の事務局長だった関塚君等を通じて本郷学園の図書館に寄贈されている。

——その後、時とともに「本」のことも、先輩と再会した時のことも、忘れるともなく忘れていった。——銀友45号での先輩の計報は、正に思っても寄らないことだった……。

● ● ●
我々三人は卒業後も毎年二回ほど会い、旧交を温めている。一昨年も三人が80歳になり、誰からともなく八母校訪問の企画が持ち上がった。桜の咲く頃に駒込駅集合——六義園——母校訪問、学園の図書

館で「神宮の奇跡」の寄贈本に對面しようというものだった。

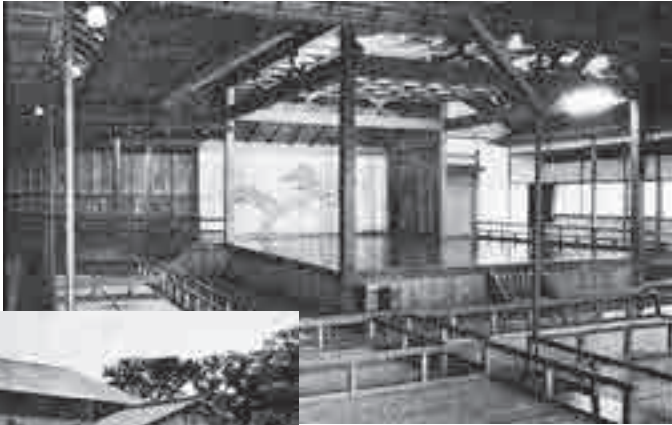
ところが、根立君は鎌倉、佐々木君は取手に住み、距離的な面と六義園をコースに加え、欲張ったことで、残念ながら取り止めとなってしまった。

しかし、今年も5月には三人で会うことになっている。再度、根立君と佐々木君に諮り、改めて学園の図書館で島崎先輩の「推薦文」と對面し、ご冥福をお祈りして来ようと思っている。



思い出の舞台

染井能舞台物語



染井能舞台



染井能楽堂の外観

昭和30年代以降に本郷学園に入
学された皆さんはほとんど、染井
能楽堂をご存知ないでしょう。
当時、駒込駅から染井通りに入
ると、笛や鼓の音が聴こえてまし
た。そこが松平邸の能舞台でした。

この能舞台、そもそものは1875
年（明治8年）に東京・根岸の旧
加賀藩主、前田斉泰（まえだなり
やす）公の自邸に建てられ、「根岸
能舞台」と呼ばれました。

加賀藩は能楽が大変盛んな土地柄
で、斉泰公は明治維新前後に衰退
しかかっていた能や狂言の復興に尽
くしましたが、没後、舞台はほとん
ど使用されず放置されていました。

1919年（大正8年）、松平頼壽（ま
つだいらよりなが）伯爵（本郷学園
創設者）は、根岸能舞台の荒廃を惜
しみ、ご母堂千代子様の隠居所に活
かしたいと譲り受け、東京・染井の自
邸に移築したのです。これを機に、「染
井能舞台」と呼ばれるようになり、
昭和30年ごろまで本郷学園の生徒は

年に何回か能楽を鑑賞したそうです。

第二次世界大戦で東京の能舞台
は被害を受け、残ったのはたったの
四つ。その一つが染井能舞台です。

染井は地の利も良く、戦後の能
再興の本拠地として全盛をきわめ、
そうそうたる名人・上手がこの舞
台を踏んでいます。

戦後の能楽再興の殿堂として隆
盛をきわめた染井能楽堂でしたが、
昭和30年代に入って舞台は老朽化
も激しく、1965年（昭和40年）
に解体されました。

その後、部材は宝生能楽堂の
倉庫に保管されていましたが、
1979年（昭和54年）部材が横
浜市に寄贈され、1996年（平
成8年）部材の大部分を使い横浜
能楽堂としてオープンしました。

根岸能舞台、染井能舞台、横浜
能舞台と名前を変えた、かつての
染井能舞台はこれからも横浜で生
き続けます。

横浜能楽堂



横浜能舞台



横浜能楽堂の外観

横浜能楽堂（よこはまのうがくどう）は、神奈川県横浜市西区にある能楽専門の公演場。

（公財）横浜市芸術文化振興財団が運営する。

○概要

掃部山公園の一角にあり、1996年（平成8年）3月に竣工。

能舞台は、1875年（明治8年）に東京・根岸の前田齊泰（まえたなりやす）邸に建てられ、東京・染井の松平頼寿（まつだいらよりなが）邸に移築された「旧染井能舞台」で、関東地方では最古の能舞台である。練習用の第二舞台や研修室も有する。1996年（平成8年）5月20日に横浜市指定有形文化財に指定されている。

○所在地

住所…神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘27-2
電話…045-263-3055
休館日…無休（施設点検日と年末年始を除く）
開館時間…午前9時～午後8時

能楽 能と狂言

今から600年ほど前、室町時代に始まった能楽。足利義満（あしかがよしむつ）に保護を受けた観阿弥（かんあみ）と世阿弥（ぜあみ）の親子が、「猿楽（さるがく）」に様々な要素を取り入れ、芸術性の高い洗練された舞台芸能へと大成した。

戦国時代や安土桃山時代には多数の武将に愛され、江戸時代になると能は幕府の式楽（しきがく）となり、御殿や武家屋敷で公式行事が行われる際に、広間などの前庭にある能舞台で上演された。

能楽という言葉は明治時代になって作られたもので、能と狂言の両方を含んでいる。歌舞中心の能と、喜劇性の強いセリフ劇である狂言は古来から関係が深く、この2つを交互に演ずる形式も古くから伝わっている。

能は、謡（うたい・歌）、舞、囃子（はやし…演奏）の要素からなる。

足を床から離さずに移動する足運びが基本で、静かで抑えた動きの舞や、男性による仮面劇という点に特長がある。

一方、狂言は基本的にセリフ中心で、神や動物の狂言面を除き面をつけないという違いがある。



鶴見 俊一 さん
1943年=昭和18年卒業
中学16回生

元横浜市技監。

1925年（大正14年）10月生まれ。

1938年（昭和13年）本郷中学入学。

1939年（昭和14年）夏、福島県立

安積中学校に転校。

1948年（昭和23年）東京大学第二

工学部土木工学科卒業・横浜市建設局港

湾課勤務。

1968年（昭和43年）下水道部長。

1973年（昭和48年）港湾局長。

1979年（昭和54年）交通局長・横

浜市交通事業管理者。

1982年（昭和57年）技監。

1984年（昭和59年）6月より横浜

市人事委員会委員を1期4年務める。

東京大学同窓会神奈川銀杏会副会長。

著書『葦の髄から天井を覗く…一人の

地方技術職員のおゆみ』（2012年

平成24年発行）

本人からのコメント

当時の中学は義務教育ではなかったの
で、小学6年生になると受験のために、

放課後は教室に残って補習授業、夜は塾
通い、日曜日は模擬試験等々と忙しく、
そのため多くの新入の中学生は体力的に
心配な点が多かったと思われます。

本郷中学では、そのような事情を配慮
されたようで、体操の時間が1週に3時
限あり、そのうちの1時限はご老令の永
井教頭先生が担当され、解散、集合、整
列など駆足重点に、先ずは生徒の体力強
化に取組まれたようです。

このような時宣にあった指導を受けたお
かげで、私も一同順調に成長して、社
会人として、それぞれ活躍できたことを
感謝しております。



菊入 喜三郎 さん
1947年=昭和22年卒業
中学20回生

郷土史家。

1930年（昭和5年）3月 東京都

荒川区生まれ。

太平洋戦争中、1945年（昭和20年）

3月自宅が強制疎開の対象になり、新潟
県古志郡太田村濁沢に疎開する。

旧制本郷中学3年生終了後、県立長岡
中学校転校に手続きするも、戦後のごた
ごたで卒業出来ず。

1948年（昭和23年）太田村役場書
記任用。

（その後4年間の休職を挟み）

1990年（平成2年）3月に山古志
村役場を定年退職。

長岡市立中央図書館の古文書解読講座の
講師を8年間勤め、また長岡市郷土資料
館に嘱託として9年間勤務し、資料の整理
や館内展示、特に人物展示の河井継之助・
小林虎三郎・三島徳二郎・山本五十六・
渡辺廉吉などの開設パネルを作成。

本人からのコメント

本郷中学校で、漢文は2年生から岡崎先
生に習った。その勉強で漢字に慣れ親しん
だ事が後に古文書解読に大いに役立った。
私家の菩提寺濁沢の阿弥陀寺に、河井
継之助の家族が戊辰戦争の時官軍に追わ
れて一時避難して来たことがあった。

長岡の殿様も八十里越えをして東北地
方にまで落ち延びた。封建時代の武士の
世は今の世と余りにかけ離れていて、明
治維新後、禄を離れて食うや食わずの貧
窮した生活の中で、殿様が困っているか
ら皆で募金をして殿様に贈るうではない
か、と回文が回ったとの話もあったほど
で、禄を戴いた恩義と主従の関係、忠義
の思いは頭から離れなかったようです。



宮入 貞雄 さん

1950年=昭和25年卒業
高校2回生

学校法人潤徳学園理事。明治大学マンドリンOBクラブメンバー。

1950年（昭和25年）明治大学商学部入学。マンドリン倶楽部に入部。

古賀正男先生より指導を受ける。在学中に藤山一郎さん、田端義夫さん等のレコーディングに参加。

1978年（昭和53年）古賀正男先生が他界され、当OBクラブは「古賀メロディーの灯を消すな」を合言葉に演奏活動をスタート。今年も10月1日（土曜日）文京文教シビック大ホールで昼・夜2回 第36回の定期演奏会を開催します。

私も84才最年長メンバーで参加します（2nd Mandolin）。

ゲストに堀内孝雄さんを予定しています。

本人からのコメント
銀杏並木の校門。広い農場そしてグラウンド。学校帰りに寄った焼き芋屋。

英語の井上先生、数学の柏谷先生、体育の浜辺先生、いろいろとお世話になりました。

当時のことが、今も懐かしく思い出します。本郷学園 今も私の青春!!



古島 実 さん

1951年=昭和26年卒業
高校3回生

彫刻家。

1933年（昭和3年）東京都生まれ。

1955年（昭和30年）東京芸術大学彫刻科卒業。

1955年～1962年東京芸術大学副手、非常勤講師。

1962年（昭和37年）フルブライト留学生として渡米。

1978年文部省海外派遣。

1978年（昭和53年）文部省派遣により渡欧。

1989年（平成元年）彫刻の森（神奈川県箱根町）に「群衆日」（黒御影石・ステンレス）を出品。

1991年～1993年に開催された第1回東京道玄坂野外彫刻展に「風見塔」を出展。

日本美術院展に出展、受賞5回。

城山公園彫刻の森（尾張旭市）アートディレクターをつとめる。

1998年（平成10年）名古屋市大曾根地区再開発事業に参加。

1997年（平成9年）愛知県立芸術大学教授退官。同大名誉教授。国画会会員、日本美術家連盟会員。2014年（平成26年）瑞宝中綬章を授与される。

本人からのコメント

戦中、戦後の大変な時代でした。

進藤先生が授業のかたわら「仏語」の授業をして下さり、数週間で転勤になりましたが、その時の情熱的授業が未だに、その内容が頭の中に残っています。

美術の大変優れた服部先生のご指導のおかげで、今日の私があるのではないかと思います。



岡本 武勝 さん

1961年=昭和36年卒業
高校13回生

前日本ラグビーフットボール協会事務局長。

1943年（昭和18年）東京都板橋区小豆沢で生まれる。

1965年（昭和40年）日本大学商学部卒業後、(株)リコーに入社。

日本大学ラグビーフットボール部では、1年生から4年生までFWのレギュラーとして公式戦全試合出場。

リコーラグビーフットボール部では、全国社会人ラグビー選手権で3度の優勝を経験。その後、関東ラグビーフットボール協会理事、日本ラグビーフットボール協会理事、事務局長としてラグビーの普及、発展に努めた。

現在は、関東社会人ラグビーフットボール連盟幹事長、日本大学ラグビーフットボールOB会顧問、リコーラグビーフットボールOB会相談役

本人からのコメント

本郷高校に入学できたら野球部に入部しようと思っていたが、体育授業でラグビーを体験すると共に、ラグビー部に入ると単位がもらえるという噂を信じて、1年生のとき、ラグビー部に入部した。

チームはどんどん強くなり、創部3年目には全国高校ラグビー大会都予選決勝に進み、6対9で惜敗。その時のその当時のメンバーとは60年近くたっても交歓があり、当時の懐かしい思い出に盛況を呈する。ラグビーは身体が大きくなると、小さな人、足の速い人、遅い人、それぞれの体質にあったポジションがあり、ルールは複雑と思われるが、意外とシンプルで、誰でも取り組むことができる。

本郷高校時代が、ラグビー人生の基礎を作ってくれた。これからもラグビーの精神を大切にしていきたい。「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために」

「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」
ワンフォオール オールフォワン
2019年(平成31年) 日本でのラグビーワールドカップ開催が楽しみである。



石原 渉さん
1972年=昭和47年卒業
高校 24 回生

文学博士。

1954年(昭和29年) 長崎県生まれ。

1976年(昭和50年) 東海大学海洋学部海洋工学科卒業。

1980年(昭和55年) 明治大学文学部史学地理学科卒業。

2003年(平成15年) 佛教大学大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了。

奈良新聞編集局報道部記者、明治大学文学部教務助手補を経て、現在は(公財)

日本習字教育財団常務理事・同博物館「観峰館」副館長。

著書に「礎の文化史」(佛教大学研究叢書)など多数。

本人からのコメント

「丁寧に大学を二つも通って、国内では誰もやらない水中考古学の研究を始めた。

しかし変人扱いされ茨の道だった。失業後、一旦、新聞社で報道記者をしていると、母校からお呼びがかかり研究室に戻って助手補となった。しかし世間はそう甘くない、その後は教育関係の財団に糧を求め、デスクワークの傍ら己が研究活動を続け、寸暇を惜しんで三番目の大学で大学院生活を送り、ようやく還暦の年に博士の学位を得た。

長崎県にある鷹島海底遺跡(たかしまかいていせいせき)は、日本初の国庫補助による水中考古学の調査現場で、当初から今日まで現場に潜り続けたのは私一人である。

しかし、こうした地道な研究活動の結果が博士論文に結実したと言える。

「初志貫徹」、「諦めない心」、これこそが人生の要諦だと思う。

後輩諸君は超優秀と聞く。だからきつと輝く未来が待っているに違いない。

思いは必ず叶うことを信じて頑張っただけ。



同期の

輪

2014年 平成26年卒業（高校66回生）

成人の集い

加藤 雅大

昨年5月21日、高校66回生の成人の集いが開催された。個人的な用事や部活の用事で巣鴨に来ることとは多かったが、学校の用事ではなかったのどこか懐かしいものを感じながら駅から高校への道を歩いた。

実行委員会で準備をし、開会の挨拶も済ませ、一つの卓に集まっていた仲のよかった同級生と話す、大学に入ってからあまり感じられない男子校特有の居心地の良さを感じた。校則がなくなり、外見に

自由が出たが、話してみても距離感のなさはあまり変わらないようだった。2年ぶりに会うような友人もいたが日曜を挟んで学校でまた会ったかのごとく何も気にすることなく、楽に話せた。その中では、高校での思い出に浸るわけではなく、将来に向けて歩みを進めている姿を感じた。

6年間で多く関わった先生方も何人かこの会の中で会うことができた。懐かしさに身を任せながらも卒業して以降の話をした。自分の話だけではなく、高校の話もしていた。自分が卒業したあとの2年間で校内ではいくらかの変化があり、それに驚くこともあった。

今回の会を開催するにあたり、協力して準備を進めてくれた同期実行委員会に深く感謝する。また、毎年成人の集いの開催のために尽力してくださる同窓会の先輩方とのつながりのありがたさを今回



感じた。この場を借りて、同窓会の先輩方、理事長先生、また、校長先生をはじめとする恩師の先生方、また、学校関係者の方々に深く感謝を表したい。

還暦の集いを終えて

1975年 昭和50年卒業（高校27回生）

鈴木 利一

4月2日、日曜日に還暦の集いを開催いたしました。今回の参加者は19名ですが、8組と機械科は参加者がいませんでした。

新たに亡くなられていた仲間がいて、お悔やみ申し上げます。

会場の関係で2時間の開催でしたが、卒業以来42年ぶりに再会し、話がつきませんでした。意外だったのが、在学中のいろいろな出来事を知ることとなった話があり、大変興味深かったです。多くの参加者と懇談する時間が足りず、悔やむばかりです。

終わった後に、数名の方たちは校内におもむき新たな校舎を見学したり、跡地を見ているいろいろ懇談いたしました。もう我々がいた時代の面影はわずかしかなかったかもしれません。

なお、今回準備不足のため担任の先生方に連絡をいたしませんで

した。お越しいただいても、生徒が誰もいなければ申し訳ないと、不安になったのも事実です。これは幹事の反省点です。多くの参加者にお気遣いいただき、申し訳ございませんでした。

今後、これを機会にまた仲間が集まれることになれば幸いです。

月1回の町屋支部会

1956年 昭和31年卒業（高校8回生）

新澤 米次

最近、ラジオ体操、プールの仲間の参加人数が減ってきた。寒さもあり、早朝体操よりも寝ている方がよいと考えているのか。冬のプール利用も夏季と比べ三分の二の減少だ。何事も継続は力なりと言われているように、毎日、体を動かすことが最良の健康方法と言われている。元気の鍵は人とのつながりで、お互いに顔を見たら挨拶することだそう。ダンス、ボーリング、





カラオケ等元気で人生を楽しむこと、また、こういう仲間と話し合うことが大切であると。

身近なことだが、本郷高校卒の8回生も同期会町屋支部会と称して毎月1回飲み会を開催している。最盛期には12〜3人、現在では5〜6人が参加している。参加している同期生たちは健康で元気であるが、最近、体の故障が出てきて、足が痛い、体のあちこちが痛くて病気がちになり、行けないという返事が多くなった。

昭和31年卒業の高8回生は今年で傘寿を迎える。還暦、古稀、喜寿を通過し、元氣組と病氣組に分かれている。医学の進歩で、健康で自力で体を動かす高齢者が増えている。傘寿を迎える高8回生の同期会の経過をたどると、60歳の時、本郷学園同窓会に連絡を取り、秋元先輩の調べで住所、氏名が分かった同期生56名の名簿を作成した。



2006年に第1回同期会を開催し24名が参加した。毎年1回、5年間同期会を開いた。しかし、年々病気やケガによる歩行困難、死亡などで出席率は悪くなった。約8年前から、同期会を待つより気の合った者だけでも月1回の飲み会をやらうとの提案があり、高8町

屋支部会と名称を付けて実行し、今も継続されている。

話題は豊富で、新聞記事の分析、健康法、運動、学園の現況、地域ボランティア参加など身近な事柄が語られる。いわゆる、会話をしながら酒を飲み、世間話をしながら憂さ晴らしをしている。これが長生きしている遠因だと思う。

元気な友よ、町屋会に参加してください。西田、大木、小幡、山本、南谷、木塚、新澤がレギュラーで参加しています。

1960年 昭和35年卒業（高校12回生）

同期会

安良岡 孝

私は本郷学園中等部から高校に入学しましたが、二年生の時に家庭の事情で中退しました。その当時の記憶の中には、楽しい思い出らしき事が無かった為か、同窓会・同級会には興味も無く、仕事に明け

暮れていました。近年、親しかった仕事仲間や友人が病気で亡くなったり、廃業したりと、哀しい寂しい事が多くなつて、自分の歳を感じる様になっていました。

そんな折、「オレ小田川だよ」。一本の電話がそんな自分を、寂しさから救ってくれたように思います。小田川に感謝!! 感謝!!

私は梅丘に。彼は隣の豪徳寺に住んで居るといふ事で、以来、時々カラオケ等で楽しむ様になりましたが、最初は何も思ひ出せませんでした。でも、中学時代に自分の家に小田川が遊びに来ていた事とか、色々話しているうちに少しずつ思ひ出してくいて、写真を出して：：：どんな童心に帰つて興奮している自分が居ました。多分、生まれて初めての快感でした。

ある日、小田川に電話をしたら偶然、同窓会（平成28年12月29日開催。11人参加。写真は右から安



良岡孝、高木佑三、錦孝治君…渡辺好之君撮影)の最中といふ事で、「直ぐ来いヨ」と言われ、本当に嬉しかった。飛んで行きました。特別参加させてもらい、有難うございました。皆、とても穏やかで優しく、顔も名前もさっぱりだったけど、本当に楽しい懐かしい時間を過ごせて幸せでした。

そんな事があつてから、自分にも

幼友達がいると思っただけで、心が温まり嬉しくなります。これから、どうぞ宜しくお願い致します。

1961年 昭和36年卒業（高校13年生）

同期会

斉藤 毅

1年ぶりに再会。本郷を卒業して人生の大きな年輪を重ねた皆さん、お元気で無事であることを何よりも喜んでおります。

2016年11月13日、いつものホテル・メトロポリタンエンドモンドにて楽しいひとときを過ごしました。11月下旬の読売新聞に「70代から中学時代」といふ見出しでの記事がありました。やはり話題の中心は当時のことや同級生の健康に対することでした。

我々の話題も季節感のことや、現役として働いている者もありますが、多くの同級生はすでに年金生活をしており、介護の苦勞や持病など



の不安、長年生きていろいろ
な経験をしてきたことなど。

また今回参加できなかった同級
生も含め、後半は本郷時代の下校
後の話や休憩中の行動に花が咲い
ておりました。

来年は、母校の文化祭に皆で集
まろうということも確認しまし
た。それぞれの生活と健康を大切
にしなが、今後も元気に再会を



約して手を振りながら散会しま
した。

1966年 昭和41年卒業（高校18回生）

来年は古希の同期会を

小倉 義雄

今回は、来年の古希（70歳）の相
談なども含め、電話・メールにて有
志のみ、平成28年11月19日（土）に
12名の参加者で、2年前に実施し
た西新井大師前の友達夫婦のス
ナック（オハナ）にて、午後4時30分
～9時30分頃まで行いました。

少し早く着いたので久し振りに
西新井大師に参拝致しました。晩
秋だと言うのに、まだコスモスが境
内の花壇に多く咲いていたのには
びっくりしました。弘法大師像の
前で、偶然石井君に会い、写真を撮
り会場のスナックに行きました。

午後5時前にはみんな集まり、
非常に楽しく昔の思い出とか、来
年の古希の相談や近況報告、カラ

オケなどをしました。そして本郷
学園の校歌を肩を組み大声で歌
い、楽しく会を過ごし、午後10時前
に散会しました。

来年は手紙はがき等にて、昨年
度同様に声を掛け合い、古希の同
期会を開ければと思います。最後
に、お互いの健康と母校ならびに本



郷同窓会の益々の発展をお祈り致します。

1972年 昭和47年卒業（高校24回生）

同期会

野田 悠二

去る平成28年11月19日（土）、池袋東明飯店において、昭和47年普通科卒業の同級生が集い、恩師・鈴木政一先生を囲んで旧交を温めました。全員で9人の参加でした。

3年前の還暦の集い以来の対面で、鈴木先生も77歳になられたようです。趣味で水彩画をやられているとのこと。この絵（奥武蔵吾野にて）は鈴木先生が描いたものです。

2時間ほど歓談して、3年後の鈴木先生の80歳のお祝い（傘寿）に再会を約束して散会しました。



1980年 昭和55年卒業（高校32回生）

本郷高等学校55会を発足

米澤 潤

平成29年2月25日、13時より東鴨養和会バルテールにおいて、「昭和55年3月卒業生」が55会を発足し同期会を初めて開催しました。

卒業以来、久しぶりに再会する人もいて、時間を忘れて懐かしい話

に花が咲きました。お互いの近況報告の中次回は学園文化祭（本郷祭）9月17日（日）15時に同窓会懇親会で会うことになりました。5年後の「還暦の集い」に多くの同期生と再会で出来ることを楽しみに散会しました。



OB会通信

卓球部

2009年 平成21年卒業（高校61回生）

清河 文雄

はじめまして、2009年本郷学園卒の清河文雄と申します。私が所属していた本郷卓球部では、卒業生対象の恒例イベントがあります。それは毎年12月30日（12／30）に開催されるOB杯&忘年会です！歴代の卓球部OBが集うこのイベントは遡ること、十数年前が起源のようです。上は40歳から下は18歳まで、中高6年間では決して交わることのなかった様々な学年が交流でき、貴重な集いとなっております。な

ぜわざわざ12／30と、年末最後に開催なのか。就職した方々、学生の方々は地方に散って活躍していても、年末年始には東京に戻ってきているだろう、ただ12／31は家族で過ごしたいだろうとの思いから、毎年12／30になったと聞いております。その狙いあつてか、毎年30名近くものOBが集まり、午後から卓球のリーグ戦・トーナメント戦を、夜は忘年会を開催することができています！

怪我をしないことが第一ですが、私含め多くの方々が毎年優勝を狙って1年間卓球の練習に励んでいるのではないのでしょうか。夜の忘年会では、毎年の大学4年生が幹事担当の元、大いに盛り上がりを見せております。結婚報告やら、子供誕生やら、校長先生就任やら、おめでたいことを全員で共有したり、午後の試合の表彰式があつたりと盛



OB杯 トーナメント



打ち上げ・忘年会

り沢山です。

実は本郷のつながりは12/30のOB杯だけではありません！毎年8月の1週目に行われる本郷卓球部中高合同の夏合宿では、OBが10人程参加します。4泊5日で現役生の技

術向上と縦のつながりを強化できる絶好の場となっております。私自身、社会人になった今でも楽しみで有給休暇を利用して参加しております（笑）卓球部顧問の先生方に、大学生になってからの報告は夜会の楽しみです。（佐久間校長先生への就任プレゼントは実は夏合宿の夜、先生方とOB達でこっそり計画していた企画でした！）



佐久間校長に就任プレゼント

1年間学業やアルバイト、仕事、卓球に励み、夏合宿に参加し、OB杯に臨み、忘年会で昔話に花を咲かせ：我々にとって今でもとても重要な居場所々になっていることは確かだと思います。これからも本郷学園での縦のつながり・横のつながり・恩師とのつながりを大切にしていきたいと強く感じております。

トピック

第四回本郷医師の会

本郷医師の会幹事長
杉下 和行

1996年11月平成8年卒業
(高校48回生)

第四回本郷医師の会を平成28年11月26日に新宿区内で開催致しました。会長である岡本明久先生からご挨拶をいただき開会となりました。岡本先生からは、インターネットの普及に伴い患者さんの医療知識の増加があり医師も対応を迫られているというお話と、人工知能の進歩が医療に与える影響についてお話がありました。

今回は過去最高の23名の参加があり、そのうち学生さんが4名、初期臨床研修医の先生が4名と若手からも多くご参加いただきました。多くの先生方は都内、埼玉県、神奈川県からのご参加でしたが、北関東からのご参加もありました。全員が集まったところに参加者の皆様から自己紹介をしていただきました。

歓談中に3回席替えを行ったため、会員が相互交流をより多く図ることができたと思います。学生さんと研修医の先生は先輩方に熱心に将来の進路相談をしていました。所属大学の先輩に相談するとしても勧誘的側面が多くなってしまうですが、本郷医師の会の先輩は公平に客観的な事実を教えてくれるため非常に参考になったようです。

九州に向けて最終の飛行機で出発する先生が早退される前に集合写真の撮影を行いました。最後に、私から参加のお礼と来年の再会をお願いさせていただきました。その後最年長の先生からもご挨拶をいただきました。

平成29年11月25日土曜日に第五回本郷医師の会を開催しますので、この記事を読まれた医師あるいは医学生

の方は是非ご参加下さい。更なる会員の増加が見込まれますので、今後はパーティールームでの立食形式を考えております。「本郷医師の会」で検索していただくと本郷医師の会のホームページが表示されます。そこに連絡先が記載されておりますので、ご連絡いただければ幸いです。同日にご都合が悪い方でも名簿に登録させていただき随時お声掛けを致しますので遠慮なくお問い合わせ下さい。



2017年度 事業計画案・予算案

2017年4月1日～2018年3月31日

会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催日 日時：6月17日(土)15時。会場：母校1号館2階会議室

● 総会後の会員懇親会開催日 日時：6月17(土)17時。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催日 日時：4月15日(土)15時、10月21日(土)15時。会場：いずれも母校1号館2階会議室

● 理事懇親会開催日 日時：4月15日(土)17時、10月21日(土)17時。会費：3,000円。会場：いずれも三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 成人の集い(第10回)卒業2年後に成人となるお祝の同期会。2015年11平成27年3月卒業生へ高校67回生V(対象)開催日 日時：5月20日(土)14時半。会費：1,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室(ブース)開設日 日時：9月16日(土)、17日(日)

● 本郷祭同窓会懇親会(サロン)開催日 日時：9月17日(日)15時。会費：3,000円。会場：三菱養和会「巣鴨スポーツセンター」内

● 還暦・30歳の集いなど同期会の開催支援

会誌の発行

● 「銀友」46号 発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒を表彰

● 卒業生全員に記念品贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理とそれにもなう新会員(卒業生など)・住所変更の登録、会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用原稿作成など必要な各種事務処理 業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新、既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載、住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催

● 入学・卒業式、体育祭など学校行事への役員代表の出席、参観

会の運営

● 運営委員会開催日 日時：4月15日(水)13時、5月20日(土)11時、6月17日(土)13時、7月15日(土)15時、9月2日(土)15時、10月21日(土)13時、11月18日(土)15時、12月16日(土)15時、1月20日(土)15時、2月17日(土)15時、3月17日(土)15時。会場：いずれも母校4号館会議室

● 成人の集い(第11回)。2016年11平成28年3月卒業生へ高校68回生V(対象)実行委員会

開催日時：2月17日(土)
13時。会場：母校4号館会議室

● 成人の集い(第13回)。

2018年平成30年3月卒業生へ高校70回生V
対象)実行委員会結成日
時：3月15日(木)13時。会
場：母校教室

— 同窓会からのお願い —

年会費納入にご協力ください

一口：2,000円以上

同窓会の運営はすべて皆様の会費で行っております。ぜひともご協力ください。

振込取扱票を同封しております。
インターネットバンキングを含む

銀行振り込みも可能です。その際は
会員番号(振込取扱票に印字してあるお名前の下の8桁の数字)か、氏名と卒業年(昭和はS、平成はHと表記してください)のどちらかを明記してください。

銀行口座：三菱UFJ銀行駒込支店

普通口座0821142

本郷学園同窓会

2017年度収支予算案

2017年4月1日～2018年3月31日

(単位：円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	4,094,025	総会(1回)、理事会(2回)開催	
新卒者同窓会入会金	3,000,000	資料作成費	150,000
同窓会年会費	2,400,000	懇親会費	300,000
成人の集い	400,000	会誌発行費(15,000部)	2,900,000
┌ 会費	┌ 150,000	┌ 銀友制作費	
└ 学校側負担金	└ 250,000	└ 宛名印刷費	
本郷祭同窓会懇親会会費	150,000	└ ラッピング費	
懇親会会費	300,000	└ 発送費	
┌ 理事会	┌ 150,000	└ 編集諸経費	
└ 総会	└ 150,000	行事部門	1,820,000
雑収入	0	┌ 成人の集い	┌ 650,000
		└ 本郷祭同窓会出展費	└ 200,000
		└ 本郷祭同窓会懇親会費	└ 150,000
		└ 同窓会開催支援費(活性化)	└ 70,000
		└ 活躍した生徒への激励費	└ 400,000
		└ 卒業生記念品費	└ 150,000
		└ 学園懇親会費	└ 200,000
		└ 会員名簿保守管理費	└ 300,000
		└ ホームページ年間契約料	└ 60,000
		└ 運営委員会交通費補助	└ 200,000
		└ 事務費	└ 150,000
		└ 備品費	
		└ 消耗品費	
		└ 資料作成費	
		└ 通信費	
		└ 雑費	
		支出合計	5,880,000
		次年度繰越金	4,464,025
合 計	10,344,025	合 計	10,344,025

2016年度 事業報告

2016年4月1日～2017年3月31日

会員相互の意見と親睦

● 定期総会開催Ⅱ日時：6月18日(土)15時。会場：母校1号館2階会議室

● 定期総会後の会員懇親会開催Ⅱ日時：6月18日(土)17時。参加者数：51人。会費3,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 理事会開催Ⅱ日時：4月16日(土)15時。10月15日(土)15時。会場：母校1号館会議室

● 理事会後の理事懇親会開催Ⅱ日時：4月16日(土)17時、参加者数：24人。10月15日(土)17時、参加者数：23人。会費Ⅱ3,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 成人の集い(第9回Ⅱ卒業2年後に成人となるお祝いの同期会。2014年Ⅱ平成26年3月卒業生ハ高校66回生V対象)開催Ⅱ日時：5月21日(土)14時半。参加者数：163人(卒業生140人、理

事長・校長・担任教諭など学園関係者8人、同窓会関係者15人)。会費Ⅱ1,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

● 本郷祭(学園文化祭)同窓会展示室(ブース)開設Ⅱ開設日：9月17日(土)、18日(日)。会場：母校4号館2階選択教室J

● 本郷祭同窓会懇親会(サロン)開催Ⅱ日時：9月18日(日)15時。参加者数：56人。会費Ⅱ3,000円。会場：三菱養和会「巢鴨スポーツセンター」内

会誌の発行

● 「銀友」45号Ⅱ発行日：5月1日。発行部数：15,000部。A5版

母校の後援

● 各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒42人(9件)を表彰

● 卒業生全員305人に記念品として印鑑を学園ならびに

父母の会と共同で贈呈

会員名簿の整理

● 同窓会会員名簿の管理とそれにとまなう新会員(卒業生など)・住所変更の登録。会費納入者・物故者の記録および「銀友」掲載用の原稿作成など必要な各種事務処理Ⅱ業者に委託

ホームページの管理

● 同窓会行事の告知・開催報告ならびに更新。既刊を含む同窓会誌「銀友」の転載。住所変更受け付け、同期会等の開催告知・報告掲載など

その他の事業

● 学園教職員との懇親会開催Ⅱ同窓会より11人参加。日時：11月9日(水)18時より。会場：「巢鴨スポーツセンター」内。

● 学園側からは理事長、常務理事、校長、副校長、高・中教頭、母校OB教諭(同窓会担当)、事務職員が参加。

● 入学・卒業式、体育祭など学

会の運営

校行事への役員代表の出席、参観

● 運営委員会開催 11日 時：4月16日(土) 13時、5月21日(土) 13時、6月18日(土) 13時、7月16日(土) 15時、9月3日(土) 15時、10月15日(土) 13時、11月19日(土) 15時、12月17日(土) 15時、1月21日(土) 15時、2月18日(土) 15時、3月18日(土) 15時。会場：いずれも母校4号館議室。

● 成人の集い(第10回)。2015年11平成27年3月卒業生へ高校67回生V(対象)実行委員会開催 11日時：2月18日(土) 13時。会場：母校4号館会議室

2016年度収支決算報告書
2016年4月1日～2017年3月31日

(単位：円)

科 目	収 入	科 目	支 出
前年度繰越金	3,580,780	総会(1回)、理事会(2回)開催	
新卒者同窓会入会金	3,050,000	資料作成費	168,006
同窓会年会費	2,440,000	懇親会費	351,000
成人の集い	404,469	会誌発行費(15,000部)	2,942,268
会費	163,000	銀友制作費	1,480,081
学園側負担金	241,469	宛名印刷費	128,304
本郷祭同窓会懇親会会費	168,000	ラッピング費	259,065
懇親会会費	294,000	発送費	993,448
理事会	141,000	編集諸経費	81,370
総会	153,000	行事部門	1,693,991
雑収入	4,882	成人の集い	677,648
		本郷祭同窓会出席費	226,436
		本郷祭同窓会懇親会費	178,000
		同期会開催支援金(活性化)	72,502
		活躍した生徒への激励費	295,000
		卒業生記念品費	152,500
		卒業生同窓会賞費	0
		学園懇親会費	91,905
		父母の会交歓会費	0
		会員名簿保守管理費	291,031
		ホームページ年間契約料	53,056
		運営委員会交通費補助	208,000
		事務費	140,754
		備品費	0
		消耗品費	19,334
		資料作成費	0
		通信費	50,477
		雑費	70,943
		支出合計	5,848,106
		次年度繰越金	4,094,025
合 計	9,942,131	合 計	9,942,131

預貯金・現金明細

(単位：円)

銀行・他	預貯金残高	定期預金	次期繰越金
三菱東京 UFJ 銀行	3,765,951	0	
郵貯銀行	305,095	0	
現 金	22,979		
合 計	4,094,025	0	4,094,025

収入の部及び支出の部について、各科目ごとに伝票・領収書等の帳票類を精査したところ、それぞれ適正に誤りなく仕訳され、整理されていた。また、期末での現金残高及び金融機関への預金残高も相違なく確認した。したがって、2016年度の収支決算は公正かつ妥当なものであると認め、ここに報告する。

2017年4月13日 監事 木塚順夫 熊木宏治

2016年度定期総会報告

山際幸雄 1966年=昭和41年卒業 (高校18回生)

日時：2016年(平成28年)
6月18日(土)午後3時
会場：本郷学園1号館2階会議室
出席者：45人

野田悠二運営委員(1972年(昭和47年)卒業) 高校24回生)が司会を務め定期総会の開始を告げ、はじめに同窓会の物故者に黙祷をささげる。

続いて、南谷修同窓会会長(1956年(昭和31年)卒業) 高校8回生)があいさつに立ち、まず激励する内外の諸情勢に言及した後、母校生徒の大学入試実績に触れ、東京大学11名、京都大学5名を始め国公立大学に100名が合格し、私立大学入試においても早稲田大学175名、慶応大学77名など多くの有名私大に合格していることを紹介した。その上で、同窓会が進めている、各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒への表彰事業について、昨年度は10件、46名を数えたと、同窓会事業の一端を報告した。さらに、能楽師小鼓方の亀井俊さん(1958年(昭和33年)卒業) 高校10回生)が平成27年度文化庁長官賞を受賞したことを披露し、終わりに「今後とも同窓会に、尽力ご協力をお願いしたい」と要望した。

新任の佐久間昭浩校長があいさつしたほか、本郷学園教育振興寄付金について伊藤隆常務理事・石田祐事務長の説明を受けた。

総会では、会則にもとづき南谷会長が議長を務め、議長が議事の開会を宣言し、書記に小室能広副会長(1956年(昭和31年)卒業) 高校8回生)、山際幸雄運営委員(1966年(昭和41年)卒業) 高校18回生)、総会の議事録署名人に梶徳治運営委員(1968年(昭和43年)卒業) 高校20回生)、立入健司運営委員(1974年(昭和49年)卒業) 高校26回生)を指名し、議事に入る。

第1号議案 理事・役員人事の件

議長から別紙総会資料1頁「本郷学園同窓会役員案」(銀友)45号38頁掲載)提案され、秋元幹夫副会長(1955年(昭和30年)卒業) 高校7回生)が説明し、新任役員(丸印)として顧問の佐久間昭浩校長と運営委員1名、理事8名を全会一致で承認した。

第2号議案 2015年度事業報告の件

議長から別紙総会資料2頁「2015年度事業報告」(銀友)45号33、34頁掲載)が提案され、秋元副会長が事業の概要を報告した。続いて、生徒への表彰について別紙総会資料3頁「2015年度表彰報告」(銀友)45号37頁掲載を秋元副会長が説明し、同窓会活性化担当の井上栄三郎副会長(1958年(昭和33年)卒業) 高校10回生)からは「成人の集い」[同期会]開催支援について、また、「本郷祭」の同窓会展示室について山際運営委員が報告した。さらに同窓会誌「銀友」第44号発行について市倉洋副会長(1960年(昭和33年)卒業) 高校12回生)、同窓会ホームページ管理について野口貴洋運営委員(1983年(昭和58年)卒業) 高校35回生)が、それぞれ説明した。

第3号議案 2015年度収支決算の件

議長から、別紙総会資料5頁の「2015年度収支決算報告書」(銀友)45号34頁掲載)が提案され、斉藤毅副会長(1961年(昭和36年)卒業) 高校13回生)が報告した。次に、熊木宏治監事(1960年(昭和35年)卒業) 高校12回生)が、2015年度会計について、4月13日(金)に監査を行った結果、「会計処理は公正かつ妥当なものである」と報告した。

ここで第2号、第3号議案を諮り、いずれも全会一致で承認した。

第4号議案 2016年度事業計画(案)の件

議長から、別紙総会資料6頁の「2016年度事業計画(案)」(銀友)45号31、32頁掲載)が提案され、秋元副会長が概要を説明した。さらに、同窓会の活性化事業について井上副会長、「本郷祭」同窓会展示室開設について山際運営委員、同窓会誌「銀友」(第45号発行)について市倉副会長、ホームページ管理について野口運営委員が、それぞれ説明した。

第5号議案 2016年度収支予算(案)の件

議長から、別紙総会資料7頁の「2016年度収支予算案」(銀友)45号32頁掲載)が提案され、秋元副会長が概要を説明し、詳細を斉藤副会長が説明した。

ここで第4号、第5号議案を諮り、全会一致で承認し、議長が議事の終了を宣言した。

議事終了後、南谷会長より、別紙総会資料8頁「学園だより」本郷高校2016年大学入学試験合格実績、別紙総会資料9頁「2016年「成人の集い」」「銀友」45号28、29頁掲載「トピックス」70年ぶりの卒業」について報告があり、文化庁長官賞を受賞した亀井俊さんがあいさつした。

この後出席者からの発言が懇談的であり、司会が総会の散会を告げた。

この議事を明確にするため、別紙総会資料を添付して本議事録を作成し、議長ならびに議事録署名人が下に署名する。

2016年6月18日 本郷学園同窓会

議長 南谷 修
署名人 梶 徳 治
署名人 立入 健 司

2016年度 本郷祭報告

竹野谷 茂

1983年 昭和58年卒業（高校35回生）

2016年。例年になく台風の発生が遅れた今年、秋になり立て続けに発生した大型の台風による被害に遭ってしまった日本列島。そんな中、好天に恵まれた伝統の本郷祭は9月17日（土）、18日（日）の2日間開催されました。

今年の本郷祭のスローガンは「Legacy Our Story is Eternal」。本郷の先輩達が築き上げた歴史を受け継ぎ・遺し・後輩に託すという意味合いを込めて、在校生達は入場門より活発に活動をしていました。

来校者が最初に目にする本郷祭ゲート。例年のカラフルな派手さは無いものの、ひときわ目を引くデザインに惹かれ写真に納める人も多く、グラウンドや地下講堂・体育館・屋上・各道場での運動部の試合など、カメラを手にした父兄や近隣の女子高校生、小学生親子も熱心に観戦する姿が見られ、グラウンドでの



試合後には母親との記念撮影があるなど微笑ましい光景を見る事が出来ました。中庭での本郷市も大変盛況で、中には行列の出来る模擬店や調理同好会などは昼過ぎには品切れ状態になるほどでした。文化部も生物部や科学部などのレベルの高い実験や展示、凝った冊子に目を通すと生徒達の気概を感じられ、中学生のクラス企画や高校生有志の個性豊かな企画も好評のようで、廊下も行き交う人々で大変賑わっていました。

同窓会ブースでは、50年以上前の卒業アルバムやかつて染井の地にあった能舞台の歴史のパネル展示、本郷学園応援委員会の主将の交代挨拶も兼ねての演舞の披露もありました。

隣室では、本郷学園もみじ幼稚園の入園説明会が行われ、時間前に満席になるほどでした。また、来年度受験志望の小学生を対象とした、入試相談会や学校紹介及び模擬授業も母親に連れられての子供達が続々と訪れているようで、次代の本郷生を予見する事が出来ました。

追記になりますが、本郷卒業生の漫画家・秋本治氏の「こちら葛飾区亀有公園前派出所」が40年にわたり連載され終了する少年誌の発売日が、奇しくも17日だったという事もあり、史料が常設展示されている本郷ギャラリーへも人が絶えず入室していました。

2016年度 表彰報告

各分野における全国規模の大会等で活躍した生徒42人(9件)を表彰

1. 東京都中学ラグビーフットボール大会2016春季大会で優勝し、第67回関東中学校ラグビーフットボール大会に進み準優勝。この成績を受けて、さらに太陽生命カップ2016年第7回中学生ラグビーフットボール大会に出場し準優勝<高橋陽太、池田健郎、仙波葵、齊藤優成、小林侃生、福澤慎太郎、吉岡麟太郎、岡本大輝、坂下航亮、長峰奨真、清水鳴哲、岡田慎之助、山本智史、君島駿介、大谷和虎、板倉彩人、榎谷連太郎、田中悠介、福原玄、小倉瑠夏、細谷源二郎、吉村隆志、中谷波一土、関田久蔵、梶原岳人君>



2. 第69回東京都高等学校陸上競技対校選手権大会200m走で優勝し、平成28年度関東高等学校陸上競技大会に出場<聲高健吾君>



3. 第40回全国高等学校総合文化祭広島大会「自然科学部門」ポスター発表部門に東京都代表として出場<藤本侑生、伊東一磨君>(以上3件28人6月15日表彰)



4. 第6回「命の大切さを学ぶ教室全国作文コンクール」で警察庁長官賞を受賞<(中学)井上雄斗君>



5. 公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本「第11回ヤマト運輸高校生経営セミナー」最終審査会に出場<安藤稔、水野翔太、日笠裕貴、関野陽向君>(以上2件5人2月18日表彰)



6. 第71回国民体育大会(岩手国体)ラグビーフットボール15人制少年男子の部東京都代表に選抜される<(高校)鳥飼昌寛君>



7. 日本物理学会第13回Jr.セッションに「塩水振動のメカニズムの解明」の研究題目で出場<(高校)本間理起、大倉大和君(中学)夏目一樹君>



8. 日本物理学会第13回Jr.セッションに「蠟燭振動のメカニズムの解明-3報」の研究題目で出場<(高校)榎本宗一郎君(中学)牛島裕斗君>



9. 日本物理学会第13回Jr.セッションに「ニュートンビーズの発生と螺旋運動に関する考察」の研究題目で出場<(高校)白居幸君(中学)岡野修平、渡邊太一郎君>



(以上4件9人3月15日表彰)

本郷学園同窓会役員(案)

任期：2018年度定期総会まで

○印は2017年度定期総会で承認を得る

役職	氏名	卒業年	卒業回期	役職	氏名	卒業年	卒業回期
名誉会長					平野隆之	1974 (昭和 49) 年	高校 26
会長	松平頼武	(学園理事長)		○	鈴木利一	1975 (昭和 50) 年	高校 27
副会長	南谷 修	1956 (昭和 31) 年	高校 8		立石嘉男	1976 (昭和 51) 年	高校 28
				○	泉 昇一	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	秋元幹夫	1955 (昭和 30) 年	高校 7	○	塚本雅一	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	小室能広	1956 (昭和 31) 年	高校 8	○	鶴坂宏文	1977 (昭和 52) 年	高校 29
	井上栄三郎	1958 (昭和 33) 年	高校 10	○	矢作 明	1979 (昭和 54) 年	高校 31
	市倉洋一	1960 (昭和 35) 年	高校 12	○	松本伸行	1980 (昭和 55) 年	高校 32
	斉藤 毅	1961 (昭和 36) 年	高校 13	○	清水一郎	1980 (昭和 55) 年	高校 32
監事				○	高山満	1980 (昭和 55) 年	高校 32
	木塚順夫	1956 (昭和 31) 年	高校 8		遠藤千秋	1981 (昭和 56) 年	高校 33
	熊本宏治	1960 (昭和 35) 年	高校 12		大場義徳	1981 (昭和 56) 年	高校 33
顧問					山本一博	1982 (昭和 57) 年	高校 34
	佐久間昭浩 (校長)				竹野谷茂	1983 (昭和 58) 年	高校 35
	山内英夫	1951 (昭和 26) 年	高校 3		佐々木晋一	1985 (昭和 60) 年	高校 37
相談役					佐藤和明	1987 (昭和 62) 年	高校 39
	宮本幸雄	1942 (昭和 17) 年	中学 15		岡本明久	1988 (昭和 63) 年	高校 40
	玉川 昭	1945 (昭和 20) 年	中学 19		移川真男	1990 (平成 2) 年	高校 42
	植松隆吉	1951 (昭和 26) 年	高校 3		下村大樹	1993 (平成 5) 年	高校 45
運営委員					野村竜太	1994 (平成 6) 年	高校 46
	新澤米次	1956 (昭和 31) 年	高校 8		庄野直哉	1995 (平成 7) 年	高校 47
○	竹村義教	1960 (昭和 35) 年	高校 12		杉下和行	1996 (平成 8) 年	高校 48
	山際幸雄	1966 (昭和 41) 年	高校 18		荻山温夫	2004 (平成 16) 年	高校 56
	梶 徳治	1968 (昭和 43) 年	高校 20		平 雷太	2004 (平成 16) 年	高校 56
	赤井健郎	1970 (昭和 45) 年	高校 22		池田貴生	2005 (平成 17) 年	高校 57
	野田悠二	1972 (昭和 47) 年	高校 24		金尾晋一郎	2006 (平成 18) 年	高校 58
	千野邦雄	1973 (昭和 48) 年	高校 25		黒部直樹	2006 (平成 18) 年	高校 58
	立入健司	1974 (昭和 49) 年	高校 26		御子柴怜志	2006 (平成 18) 年	高校 58
	米澤 潤	1980 (昭和 55) 年	高校 32		岡本健太郎	2007 (平成 19) 年	高校 59
	野口貴洋	1983 (昭和 58) 年	高校 35		高宮成将	2007 (平成 19) 年	高校 59
	小池武次	1983 (昭和 58) 年	高校 35		田中大貴	2007 (平成 19) 年	高校 59
理事					塩野智也	2008 (平成 20) 年	高校 60
	高野正美	1944 (昭和 19) 年	中学 17		西村友吾	2008 (平成 20) 年	高校 60
	野木惣市	1945 (昭和 20) 年	中学 19		宮島大貴	2009 (平成 21) 年	高校 61
	田島利男	1947 (昭和 22) 年	中学 20		佐藤明彦	2009 (平成 21) 年	高校 61
	望月敏郎	1951 (昭和 26) 年	高校 3		柳田 将	2009 (平成 21) 年	高校 61
	地曳秀雄	1951 (昭和 26) 年	高校 3		松井洋輔	2009 (平成 21) 年	高校 61
	津久田愛之助	1954 (昭和 29) 年	高校 6		吾郷友紀	2010 (平成 22) 年	高校 62
	渡辺昭義	1954 (昭和 29) 年	高校 6		山田 駿	2010 (平成 22) 年	高校 62
	大西美代智	1954 (昭和 29) 年	高校 6		若林 司	2010 (平成 22) 年	高校 62
	岡本信也	1958 (昭和 33) 年	高校 10		植草太郎	2011 (平成 23) 年	高校 63
	久保國男	1960 (昭和 35) 年	高校 12		佐藤祐介	2011 (平成 23) 年	高校 63
	山本達雄	1960 (昭和 35) 年	高校 12		關田宗範	2011 (平成 23) 年	高校 63
	阿出川信夫	1961 (昭和 36) 年	高校 13		宇賀直道	2012 (平成 24) 年	高校 64
	池田雅彦	1962 (昭和 37) 年	高校 14		手島秀則	2012 (平成 24) 年	高校 64
	高山隆義	1963 (昭和 38) 年	高校 15		中村建介	2012 (平成 24) 年	高校 64
	杉山勝正	1963 (昭和 38) 年	高校 15		北野史浩	2013 (平成 25) 年	高校 65
	小倉義雄	1966 (昭和 41) 年	高校 18		熊谷大輝	2013 (平成 25) 年	高校 65
○	宮沢正喜	1966 (昭和 41) 年	高校 18		白石慎太郎	2013 (平成 25) 年	高校 65
	関塚正治	1968 (昭和 43) 年	高校 20		田口雄飛	2013 (平成 25) 年	高校 65
	内山正敏	1968 (昭和 43) 年	高校 20		畑本麻斗	2013 (平成 25) 年	高校 65
	中田守喜	1969 (昭和 44) 年	高校 21		加藤雅大	2014 (平成 26) 年	高校 66
○	堀井貞夫	1969 (昭和 44) 年	高校 21		星野将輝	2014 (平成 26) 年	高校 66
	加納耕助	1970 (昭和 45) 年	高校 22		前田啓行	2014 (平成 26) 年	高校 66
	染谷幸雄	1970 (昭和 45) 年	高校 22	○	杉原拓斗	2014 (平成 26) 年	高校 66
	砂沼照男	1971 (昭和 46) 年	高校 23	○	中村有希	2015 (平成 27) 年	高校 67
	田中良一	1972 (昭和 47) 年	高校 24	○	増本洋行	2015 (平成 27) 年	高校 67
	中嶋健至	1973 (昭和 48) 年	高校 25	○	加藤遼一	2015 (平成 27) 年	高校 67
	石井聖一	1973 (昭和 48) 年	高校 25	○	瀬田孝平	2015 (平成 27) 年	高校 67
				○	藤本宇郁	2015 (平成 27) 年	高校 67

学園だより

本郷高校 2017 年大学入学試験合格実績

大学名	計	現役
国公立・大学校		
東京	10	7
京都	4	
一橋	6	4
東京工業	9	7
北海道	6	3
東北	7	4
名古屋	3	1
大阪	1	1
山形	1	
筑波	6	5
茨城	1	1
宇都宮	2	1
埼玉	3	3
千葉	8	5
東京学芸	2	1
東京農工	3	2
東京海洋	1	
電気通信	8	5
首都大学東京	1	1
横浜国立	8	6
横浜市立	1	1
新潟	2	1
金沢	1	
都留文科	1	
山梨	1	1
神戸	1	1
広島	1	
佐賀	1	
長崎	1	
札幌医科	1	1
浜松医科	1	
京都工芸繊維	1	1
九州工業	1	1
水産	1	1
防衛医科	2	1

大学名	計	現役
私立		
早稲田	116	85
慶応義塾	94	78
上智	37	24
東京理科	115	85
明治	137	103
青山学院	18	12
立教	33	22
中央	27	18
法政	62	46
学習院	16	12
成蹊	11	9
成城	16	15
明治学院	22	18
日本	61	41
専修	22	20
東洋	10	6
駒澤	11	10
獨協	5	3
國學院	17	11
武蔵	8	4
神奈川	29	29
玉川	5	2
大東文化	3	3
東海	7	6
亜細亜	1	1
帝京	7	2
国土館	1	1
拓殖	2	2
東京経済	4	4
国際基督教	3	2
東京都市	12	10
芝浦工業	49	37
麻布	2	2
関西	5	2
関西学院	3	
北里	5	5
杏林	2	

大学名	計	現役
私立		
近畿	2	1
工学院	3	3
国際医療福祉	3	2
埼玉医科	1	
順天堂	11	6
湘南工科	1	1
昭和	4	2
昭和薬科	1	1
聖マリアンナ医科	1	
大正	4	3
多摩美術	1	1
千葉工業	12	12
千葉商科	1	1
東京医科	3	2
東京工科	2	1
東京慈恵会医科	3	
東京電機	17	14
東京農業	17	14
東京薬科	3	2
同志社	6	4
東邦	13	8
二松學舎	2	2
日本医科	2	1
日本歯科	1	1
文教	3	1
星薬科	4	4
明海	1	
明治薬科	1	1
明星	3	3
立正	2	1
立命館	16	9
立命館アジア太平洋	1	
岩手医科	2	
東北芸術工科	3	2
中京	1	
大阪薬科	1	
奥羽	1	

2016 年度退職教職員

英語

服部 剛

(2017年4月7日現在)

本郷学園同窓会会則

◆ 第一章 名称及び位置 ◆

《名称》

第一条 本会とは本郷学園同窓会という。

《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込四丁目十一番一号
学校法人 本郷学園内に置く。

◆ 第二章 目的 ◆

《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を深め母校の発展をはかることを目的とする。

《事業》

第四条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 会員の親睦会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 母校の後援
- (4) 会員名簿の整備管理
- (5) ホームページの管理
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業

◆ 第三章 組織及び役員 ◆

《会員》

第五条 本会は次の会員により組織する。

- (1) 旧制本郷中学校及び本郷高等学校卒業生
- (2) 本郷中学校卒業生及び旧制本郷中学校並びに本郷高等学校に在籍したことのある者で理事会の承認を得た者

《役員》

第六条 本会には次の役員を置く。

会長 一名 副会長 若干名 理事 各任期若干名、監事 二名

《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

- (1) 会長は理事会において理事の互選により選出する。
- (2) 副会長は理事の中から会長の委嘱によつて定める。
- (3) 理事は各任期の中から選出し、総会の承認を得るものとする。ただし選出のない任期からの理事は会長が委嘱し、総会の承認を得るものとする。

(4) 監事は総会において会員の中から選出する。

《名誉会長及び顧問、相談役の設置》

第八条 本会に名誉会長及び顧問、相談役を置くことができる。

二名 名誉会長は本郷学園理事長にこれを委嘱する。

三 顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに本会会長経験者にこれを委嘱する。

四 相談役は副会長、理事、監事の経験者の中より会長がこれを委嘱する。

《役員の仕事》

第九条 役員は次の任務を行う。

- (1) 会長は会を代表して会務を総括執行する。
- (2) 副会長は会長を補佐し会長事故あるときは、副会長間において定める順位により会長事務を代行する。
- (3) 理事は理事会に出席して本会の運営に参画する。
- (4) 監事は会計を監査する。又、理事会及び運営委員会に出席し意見を述べることができ、
- (5) 理事及び監事は相互に兼ねることができない。
- (6) 顧問、相談役は会長の要請により会議に出席する。

《役員の仕事及び任期》

第十条 役員の仕事及び任期は三年とする。ただし再任は妨げない。

二 補充により選出された役員の仕事及び任期は三年間の当該任期の残任期間とする。

三 前第一項、第二項にかかわらず、役員は次期役員の仕事及び任期の日までは、なお、その任務を行う。

四 会長は役員が同窓会の役員としてふさわしくない行為を行った場合、又は特別の事情がある場合には、副会長と協議のうえ当該役員を解任することができる。

◆ 第四章 会議 ◆

《会議》

第十二条 本会が行う会議は総会、理事会、運営委員会とする。

二 会議の議長は会長がこれにあたる。

《総会》

第十三条 定期総会は毎年一回、事業年度終了後三か月以内に開催し、次の事項を審議し議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算の決定

- (2) 会則の改正
 - (3) 理事の承認並びに監事の選出
 - (4) 事業報告及び収支決算の承認
 - (5) その他本会の運営に関する重要事項
- 二 会長は理事会の議決により臨時に総会を招集することができる。

《理事会》

第十三条 理事会は会長の要請もしくはは理事の過半数の請求により開催する。

- 二 理事会は次の事項を審議し議決する。
 - (1) 会長の選出
 - (2) 第五条第2号に該当する会員の承認
 - (3) 総会の議決した事項の執行
 - (4) 総会に付議すべき事項
 - (5) 運営委員会より付議された事項
 - (6) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

《運営委員会》

第十四条 運営委員会は会長及び副会長、本会の事業を担当する理事で構成する。

- 二 運営委員会は会長の招集によって開催し、本会の日常の運営にあたる。

第十五条 第十二条第一項並びに第十三条第二項にかかわらず、緊急を要する事案は運営委員会において処理し、事後、理事会の承認を得るものとする。

◆ 第五章 事業及び議決 ◆

《事業の遂行》

第十六条 会長は、企画及び会誌の発行、会計、庶務等の副会長の担当を定め、かつ、これを補佐する理事を指名する。担当副会長は理事の協力を得て本会の事業を行う。

《事務取扱者》

第十七条 本会の事務を処理するため事務取扱者を置く。担当者は運営委員会委員の中より会長が委嘱する。

《議決》

第十八条 会員は総会において発言権、議決権を有する。

二 総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。可否同数の場合は議長が決める。

◆ 第六章 会計 ◆

《事業年度》

第十九条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終わる。

《事業計画及び収支予算》

第二十条 本会の事業計画書及び収支予算書は会長が作成し、総会の議決を得なければならない。ただし総会までの間は理事会の議決によることを妨げない。

《事業報告及び収支決算》

第二十一条 本会の事業報告書及び収支決算書は、会長が事業年度終了後遅滞なく作成し、監事の監査を経たうえ、総会の議決を得なければならない。

《会計》

第二十二条 本会の経費及び事業資金は次をもつて充当する。

- (1) 入会金
 - (2) 会員の年会費
 - (3) 利息収入
 - (4) 寄付金品
- 二 いったん納入した金品は一切返還しない。
- 第二十三条 会員は年会費を二口弍千円として二口以上を毎年納付するものとする。
- 二 卒業時の入会金は壹万円とする。

◆ 第七章 会則の改正 ◆

第二十四条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成を経て改正することができる。

◆ 付則 ◆

本会則は平成十五年六月二十一日より施行する。
本改正会則は平成二十二年六月十九日より施行する。ただし第二十三条第二項については平成二十三年度より実施する。

以上

会費納入者一覧

本郷学園同窓会
会費納入者一覧

2017年(平成29年)

3月31日現在

卒業同期 氏名(敬称略)

今里 隆	五十嵐 宏	青戸 将	新井 保文	安達 正治	鈴木 隆	山口 登	高野 正美	佐藤 元徳	尾前 広	伊藤 元徳	秋田 禮一	阿出川 昭治	鶴見 俊一	小永井 暹	根本 卓光	中村 美登	柴崎 敬二	勝 敬二	甲子夫	山口 一弘	橋 正道	鈴木 和男	景山 正隆	太田 恭二	河北 展生	市川 雄一	鈴木 貞夫	笹岡 武徳	卒業同期 氏名(敬称略)					
鶴岡 俊雄	田島 利男	佐藤 昌雄	大塚 康夫	大屋 忠	市川 恒雄	野木 惣市	高橋 實	高 三郎	玉川 昭	鈴木 孝一	下川 敬朗	大久保 武司	浅原 義久	新井 忠彦	阿出川 義男	渡辺 信夫	渡部 豊一	矢部 博康	森 正徳	藤田 弘治	長谷川 忠也	野本 昭	仲摩 邦夫	西野 重義	高橋 三郎	妹尾 尚	鈴木 卓三	島田 公雄	志田 芳久	志賀 誠一	佐々木 一昭	笠原 栄治	大沢 善和	宇田川 孝一
坂田 実	齊藤 邦衛	北見 尹郎	奥平 博一	植松 隆吉	宮川 達夫	浜野 貞雄	羽生 清隆	沼田 日出彦	羽生 銜佑	豊嶋 敬司	瀬川 澄男	櫻井 泰	坂野 重一	外倉 雅文	小 悦雄	野々村 長三	高田 政雄	井筒 千秋	古澤 昭二	根本 幹弘	鈴木 完	小林 國雄	柄澤 喜市	大下 晃	伊東 賢二	宮本 良一	鈴木 三好	伊澤 保	山下 芳雄	久永 幸隆	羽山 健児	中島 敬太郎		
中山 壽夫	寺田 栄一	津久田 愛之助	仙波 忠志	関 貞三	鈴木 惣一郎	篠越 佑	小林 金則	後藤 順夫	藏田 尚行	大西 美代智	小椋 一	奥村 茂	内田 孝二	漆間 秀雄	高 泰輔	山崎 利恭	谷川 洋明	片桐 幸一郎	梶野 伸二	市村 近	井沢 清	佐々木 直剛	八嶋 政臣	篠二 郎	高 大島 宏文	吉田 孝光	望月 敏郎	光安 伸夫	菱 信三	根本 強	長崎 秀雄	地曳 秀雄		
前田 武彦	渡邊 茂明	山本 賢一	南谷 修	藤本 昭夫	藤卷 健三	深澤 宏之	古屋 勝三	西田 稜雄	長澤 秀幸	新澤 米次	小室 能広	木塚 順夫	金子 隆一	尾島 圭亮	大野 俊広	小幡 昌久	今仁 猛一	五十嵐 資幸	稲葉 研治	山内 周	宮崎 靖司	益川 雄治	福原 信夫	高橋 三郎	鈴木 健	酒井 征彦	青木 輝男	市川 錦次郎	香森 哲也	渡辺 昭義	松本 幸司	根立 易夫	中村 義一	
熊木 宏治	久保 國男	亀井 忠雄	大梶 勝英	飯田 典幸	伊奈 洋一	市倉 信行	阿久津 二三男	高 12 小池 弘祐	高 11 太田 善夫	高 11 山崎 尚	佐々木 範行	渡部 長幸	八木橋 実	山崎 昇	林田 輝男	中河 秀行	紀藤 弘之	上岡 光男	亀井 俊一	小川 紘	岡本 信也	泉澤 賢一	青木 弘三郎	井上 弘三	風間 幹雄	比企 正憲	西田 好晴	島村 泰夫	佐藤 左武郎	川崎 孝	江原 森太郎	田原 博昭	高 9 芥川 定義	

成澤 信夫
原 哲夫
三友 宏樹
米沢 潤
山崎 浩司
高 33
青木 和夫
天沼 嘉章
磯田 浩之
岩田 実
宇賀神 茂
遠藤 千秋
奥田 十善
小口 邦夫
齋藤 卓
高橋 秀明
戸谷 庸克
中野 一美
並木 成中
西 洋一
福島 浩
山崎 幸一
吉田 浩久
吉田 秀樹
高 34
秋元 康夫
小林 晋一郎
小林 俊明
平澤 淳
水戸 成二
高 35
藤本 由紀夫
佐々木 央
諸石 貴生
岩崎 弥一
花輪 幸男
江利川 吉彦
河合 一典
小池 武次
佐々木 一宏

鈴木 孝
竹野谷 茂
戸張 元
江原 啓之
野口 貴洋
高 36
美谷島 信久
加藤 吉郎
下鳥 豊
田中 正二
田中 淳
杉本 賢一
田邊 圭一
松本 弘宣
大沢 貴生
鈴木 正人
直井 一樹
久保 康雄
丸山 弘文
荒井 和彦
小野寺 延存
根岸 秀昭
小澤 竹史
秋山 高樹
横川 俊之
城 和夫
矢島 建造
内山 晋一
佐々木 武行
高野 記好
岡本 巖
柴山 敏幸
磯貝 俊一
岩城 史朗
山田 史朗
住吉 一泰
高木 淳
守屋 健一

稻村 潤
大野 直樹
古賀 明
木村 政則
森田 邦治
高 39
梶 晋介
清水 仲樹
上原 孝治
矢嶋 実
高 40
金子 史孝
日石 純一郎
重川 博之
上田 一人
岡本 孝志
岡山 明久
丸山 義則
小掛 慎太郎
小松 直人
関口 隆之
秋庭 健一
紙谷 淳一
小林 和弘
高 41
長瀬 祐司
高田 知博
井上 貴行
川島 雅之
長谷 隆仁
持地 政彦
林 慎也
高 42
関口 虎男
花田 憲彦
三井 利生
本井 淳悟
田村 仲也
吉川 秀一
大澤 清

高山 慎
藤田 恵輔
石本 健太郎
小長谷 賢治
塩家 吹雪
高 43
伊藤 正明
萩原 孝規
畑 聡志
上原 弘行
中田 一郎
木村 秀樹
木村 步希
中村 浩史
今井 仁
野口 拓栄
藤田 清志
久保村 豊
中村 雅知
津部 直文
津田 達広
川上 慎太郎
渡邊 卓也
波辺 善之
高 44
青木 和久
近藤 正徳
高木 功介
荒井 昌之
高 45
山崎 覚峰
大森 慎太郎
秀野 泰隆
香取 範充
佐藤 良
板橋 斉
馬渡 寿和
稻生 雄一郎
杉下 和行

中村 織雄
堀 洋平
林 誠吾
安井 督
高 49
高 50
豊川 宗成
網島 浩介
福島 理文
新村 光央
梶野 貴経
佐藤 英明
新井 亮輔
中田 孝宏
中村 元氣
中澤 一晴
山本 利幸
山本 健太郎
宇田 順也
乙丸 貴史
津田 順也
高 51
高 52
伊藤 智久
高橋 久仁郎
大塚 剛
古島 快典
古島 久仁郎
高 53
中井 秀昌
手塚 悦生
吉村 和幸
小谷 千仁
猪越 正直
鈴木 慎吾
坂本 泰宏
千田 昌宏
鈴木 常太
向井 崇平
藤本 耕平
塩畑 太一
伊藤 浩一
高 54
堀内 伸剛
大河内 佳央
正木 健彦
小泉 信吾
和泉 敏治
堀越 周一
土橋 篤仁
鶴木 孝人
小島 学
大森 秀昭
江間 裕樹
高橋 思朗
高橋 祐磨
西島 柁夫
栗野 耕平
根岸 達哉
深藤 敬太
後藤 宗治
高辻 紘之
中村 旭
小藤 寛之
齊藤 秀雄

福森 洋輔
齊藤 秀雄
小藤 寛之
中村 旭
高辻 紘之
深藤 敬太
後藤 宗治
根岸 達哉
栗野 耕平
西島 柁夫
高橋 祐磨
高橋 思朗
江間 裕樹
大森 秀昭
小島 学
鶴木 孝人
土橋 篤仁
堀越 周一
堀内 伸剛
正木 健彦
小泉 信吾
和泉 敏治
堀越 周一
土橋 篤仁
鶴木 孝人
小島 学
大森 秀昭
江間 裕樹
高橋 思朗
高橋 祐磨
西島 柁夫
栗野 耕平
根岸 達哉
深藤 敬太
後藤 宗治
高辻 紘之
中村 旭
小藤 寛之
齊藤 秀雄

高 60 藤井 鳥居 浅野 吉田 久保 矢吹 宮崎 福田 村川 小堀 宇山 長谷川 松本 林 水谷 廣瀬 小泉 高 59 金屋 黒田 梅田 池田 金尾 山田 田中 秋本 松島 高 58 宮川 石村 宮本 安藤 新井 谷口 栗田 高 57 池田 貴生 直亮

高 63 櫻井 福嶋 櫻井 伊藤 青木 兵頭 豊田 平田 金 辰野 須藤 田口 伊藤 松永 永山 中渡 永野 小谷 申 櫻井 幸田 富田 宮田 望月 梅田 河野 川野 岩崎 森下 町田 築山 高橋 河内 小穴 宇津木 山本 黒田 正木 寛己 大樹 佑樹 弘暁 昂志良 義章 雅人 雅俊 辰野 須藤 田口 伊藤 松永 永山 中渡 永野 小谷 申 櫻井 幸田 富田 宮田 望月 梅田 河野 川野 岩崎 森下 町田 築山 高橋 河内 小穴 宇津木 山本 黒田 直哉

高 64 藤森 野崎 外山 新井 辰野 須藤 田口 伊藤 松永 永山 中渡 永野 小谷 申 櫻井 幸田 富田 宮田 望月 梅田 河野 川野 岩崎 森下 町田 築山 高橋 河内 小穴 宇津木 山本 黒田 直哉

高 65 藤森 野崎 外山 新井 辰野 須藤 田口 伊藤 松永 永山 中渡 永野 小谷 申 櫻井 幸田 富田 宮田 望月 梅田 河野 川野 岩崎 森下 町田 築山 高橋 河内 小穴 宇津木 山本 黒田 直哉

高 66 青木 内藤 山崎 富樫 渡邊 小島 川島 駒野 駒野 藤田 古谷 東方 田中 星野 清宮 伊藤 佐藤 平井 上原 近藤 村上 中川 重松 星野 城子 間明田 正村 清水 高橋 渡邊 須田 吉田 倉地 井上 小川 弘樹 瑞樹 崇史 裕大 健太郎 卓人 直人 洋紀 紀 輝 龍一 嘉弘 優也 宙也 正太 伊藤 朋希 大知 大介 大晟 直人 貴哉 景太 英憲 泰宏 公宏 大樹 正明 大樹 祥功 達彦 宏明 智皓 有田 充志 將孝 岩科 優介 清剛 山岸 克志 飯島 雅崇 色川 崇人 金子 俊博 中村 水介 石川 文也 白鳥 哲嗣 鈴木 智紀 松井 智紀 木村 洋一 渡辺 涼介 種村 正太郎 安田 直樹 加藤 隼人 北川 浩史 須賀 万貴 森 可智 平岡 祐典 緑川 響介 峰崎 創平 山浦 悠一郎 小島 裕貴 塚本 真生 塚本 真生 安達 匠 櫻井 亮輔 服部 研人 五十嵐 大輝 萩原 和貴 丸山 雅貴 吉田 哲也 鈴木 貴裕

FAX
0339170007

※万全を期したつもりですが、万が一、お名前前の漏れや誤字、脱字などの間違いがありましたらご容赦ください。FAXでご一報いただければ幸甚です。

納入者数 863人

ヤハギ アキラ S54
スズキ シンゴ
スズキ トシロウ199
09045476428
20150181アリタア
20150181アリタア
スズキ ヤスヨシ
イシカワ ヨシカズ
回期等 不明者

皆川 混平
中村 壮
北村 俊徳
岩井 惇一郎
光井 直哉
岩井 惇一郎
檀聡
谷川 悠飛
齊藤 亮
桂 彰寿
榎本 大智
飯田 翔悟
西 雄太
高橋 修明
芹澤 礼人

謹んで、「冥福をお祈り致します」
同窓会にご連絡のあった方のみ掲載しております

中2	榎原 裕	重永 政夫
中6	佐原 雄次郎	永田 秀次郎
中7	秋元 庄司	中20 林 鷹男
中8	石坂 岩雄	中21 中林 商蔵
中10	田口 赫郎	二宮 重恒
中11	長谷 俊平	羽根 敏郎
中12	上平 和夫	横澤 邦彦
中13	河北 展生	中22 福沢 昇
中13	小林 新樹	高3 菱 信三
中13	調所 輝也	高1 種田 邦彦
中15	杉田 政武	高4 大島 宏文
中15	杉田 義久	高6 神崎 俊彰
中16	山本 賢治	高8 尾島 圭亮
中16	吉田 幸之輔	高15 鷺見 桂一
中16	朝比奈 正雄	高15 佐藤 肇孝
中16	大泉 恒雄	高19 林 儀夫
中18	白井 明	高20 工藤 一郎
中18	鈴木 隆	高21 西 正規
中18	宇田川 孝一	高21 山崎 正博
中18	小野澤 廣之	高27 安部 昌治
中19	佐藤 明夫	高31 斉藤 昌仁
中19	杉原 繁夫	高36 占部 光哉
中19	石塚 哲雄	高36 森 哲哉
中19	板倉 一典	高36 山岸 勝彦
中19	大久保 武司	

編集後記

◆はたして原稿が集まるだろうか。年に1回とはいえ、いつもヒヤヒヤしながらの「銀友」発行のスタートです。おかげさまで、今号では4人の方が投稿してください、ホッと胸をなでおろしました。佐藤憲一さんは「本郷魂」とのタイトルで、どのような展開になるのかと、一気に読まされました。3年間の学園生活について「感謝の念しか、ありません」と結びます。文武両道。勉強とクラブ活動は学校教育の両輪です。医師の金子駿太さんは卓球部、家業のかたわら保護司として社会に貢献する小山進さんはサッカー部で心身を鍛えあげています。母校に寄贈し、図書館の書架に並ぶ一冊の本を紹介してくださいました貞三さんは野球部です。いわゆるハ部活Vがすべてだったと、振り替える卒業生は少なくありません。部活OB会の動向もお伝えしたいと念願しています。

◆同窓会の主要行事である「成人の集い」が定着してきました。例年、5月の第3土曜日に開催されており、今年で10回目の節目を迎えます。現在、卒業時に生徒たちの代表で結成された実行委員会が準備を進めています。昨年は卒業生304人の約半数に近い140人が参加し大変な盛況ぶりでした(21頁、同期の輪・「成人と集い」参照)。その雰囲気を加藤雅大実行委員長は「2年ぶりに会うような友人もいたが日曜日を挟んで学校でまた会ったかのごとく」と表現しています。さらに「還暦の集い」(22頁、同期の輪・「還暦の集い」参照)も軌道に乗つつあり、ポスト「成人の集い」として「30歳の集い」も計画しています。関係各位の一段のご協力を心よりお願いいたします。

(Y)

本郷学園校歌

むかしは植樹の名どころ染井
 とりわけ紅葉の錦に知らる
 今は学園ここに開けて
 園の柱の苗木を育つ
 ああわれら 誇りの本郷学園
 ああ柱苗木の青年われら
 つとめば未来に何えせざらむ
 さらば園めよ処世のもとい
 こころは剛毅に身は強健に
 ああわれら 誇りの本郷学園

作詩 坪内逍遙
 作曲 信時 潔

南



本郷祭(学園文化祭)を同窓生交流の場に

— 9月16日(土)、17日(日) —

同窓会展示室を開設(当日のプログラムでご案内します)

〈当日は同期会・クラス会・部活OB会などの集合場所にご利用ください〉

同窓会懇親会を開催 9月17日(日)15:00~17:00

会 場 三妻養和会栗橋スポーツセンター2階「レストランバルテール」

会 費 3,000円

※ 展示室で利用券を受け取りご参集ください